

09/1951

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
in this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

1997年11月28日

願 番 号
Application Number:

平成 9 年特許願第328837号

願 人
Applicant(s):

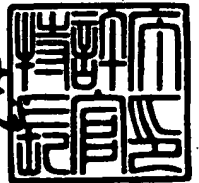
株式会社リコー

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

1998年 7月 3日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

保佐山 建志



出証番号 出証特平10-304990

【書類名】 特許願

【整理番号】 9705964

【提出日】 平成 9年11月28日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G03G 21/00 396

【発明の名称】 画像形成装置管理システム

【請求項の数】 3

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

【氏名】 浅川 哲男

【特許出願人】

【識別番号】 000006747

【氏名又は名称】 株式会社リコー

【代理人】

【識別番号】 100078134

【弁理士】

【氏名又は名称】 武 顕次郎

【電話番号】 03-3591-8550

【選任した代理人】

【識別番号】 100097951

【弁理士】

【氏名又は名称】 山田 英穂

【選任した代理人】

【識別番号】 100099520

【弁理士】

【氏名又は名称】 小林 一夫

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 006770

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9105157

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像形成装置管理システム

【特許請求の範囲】

【請求項1】 1以上の画像形成装置と管理装置を通信コントロール装置を介して接続して前記管理装置が前記画像形成装置を管理する画像形成装置管理システムにおいて、

前記画像形成装置は、

ジャム発生時にその旨を前記管理装置に対して自動的に通報する通報手段と、

ジャム発生回数をカウントするカウント手段と、

前記カウント手段のカウント値が所定値に到達した場合に前記通報手段の通報を禁止する通報禁止手段と、
を備えていることを特徴とする画像形成装置管理システム。

【請求項2】 1以上の画像形成装置と管理装置を通信コントロール装置を介して接続して前記管理装置が前記画像形成装置を管理する画像形成装置管理システムにおいて、

前記画像形成装置は、

ジャム発生時にその旨を前記管理装置に対して自動的に通報する通報手段と、

ジャム状態の時間をカウントするカウント手段と、

前記カウント手段のカウント値が所定値に到達した場合に前記通報手段の通報を禁止する通報禁止手段と、
を備えていることを特徴とする画像形成装置管理システム。

【請求項3】 前記通報禁止手段を動作させるか否かを設定する設定手段と

、
前記設定手段により前記通報禁止手段を動作させない状態から動作させる状態に設定された場合に、前記カウント手段のカウントアップをクリアする手段と、
を更に備えていることを特徴とする請求項1または2記載の画像形成装置管理システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、複写機、ファクシミリ、プリンタなどの複数の画像形成装置と管理装置を、画像形成装置側に設置された通信コントロール装置を介して接続して管理装置が個々の画像形成装置を管理する画像形成装置管理システムに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、この種の画像形成装置管理システムとしては、例えば特開平5-141526号公報に示すように、複写機側においてジャムトラブルが発生した場合、ジャムの発生状況に応じてメンテナンスを必要とするか否かを判断し、必要とする場合にその情報を管理装置側に自動的に通報する方法が提案されている。このような方法によれば、通報に対応してサービスマンが早急に訪ねて適切なジャムリカバリを行うことができる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来の方法では、ジャムトラブル時にメンテナンスを必要とする場合にその情報を管理装置側に自動的に通報するので、ジャムトラブルが頻発すると、何度も自動通報が行われて無駄な通報が行われると言う問題点がある。

【0004】

本発明は上記従来の問題点に鑑み、ジャムトラブル時の無駄な自動通報を防止することができる画像形成装置管理システムを提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

第1の手段は上記目的を達成するために、1以上の画像形成装置と管理装置を通信コントロール装置を介して接続して前記管理装置が前記画像形成装置を管理する画像形成装置管理システムにおいて、前記画像形成装置が、ジャム発生時にその旨を前記管理装置に対して自動的に通報する通報手段と、ジャム発生回数を

カウントするカウント手段と、前記カウント手段のカウント値が所定値に到達した場合に前記通報手段の通報を禁止する通報禁止手段とを備えたことを特徴とする。

【0006】

第2の手段は上記目的を達成するために、1以上の画像形成装置と管理装置を通信コントロール装置を介して接続して前記管理装置が前記画像形成装置を管理する画像形成装置管理システムにおいて、前記画像形成装置が、ジャム発生時にその旨を前記管理装置に対して自動的に通報する通報手段と、ジャム状態の時間をカウントするカウント手段と、前記カウント手段のカウント値が所定値に到達した場合に前記通報手段の通報を禁止する通報禁止手段とを備えたことを特徴とする。

【0007】

第3の手段は、第1、第2の手段において前記通報禁止手段を動作させるか否かを設定する設定手段と、前記設定手段により前記通報禁止手段を動作させない状態から動作させる状態に設定された場合に、前記カウント手段のカウントアップをクリアする手段とを更に備えたことを特徴とする。

【0008】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。図1は本発明に係る画像形成装置管理システムの一実施形態を示すブロック図、図2は図1の複写機を示す構成図、図3は図1の複写機の操作パネルを示す構成図、図4は図1の複写機を詳しく示すブロック図、図5は図1の通信コントロール装置を詳しく示すブロック図、図6は図1の管理装置を詳しく示すブロック図、図7は遠隔通報キーによる遠隔通報時の通信シーケンスを示す説明図、図8は自己診断異常による遠隔通報時の通信シーケンスを示す説明図、図9は事前警告による遠隔通報時の通信シーケンスを示す説明図、図10は図1の管理装置から複写機にアクセスする場合の通信シーケンスを示す説明図、図11は図1の管理装置から通信コントロール装置にアクセスする場合の通信シーケンスを示す説明図、図12は図1の通信コントロール装置から複写機にアクセスする場合の通信シーケンスを示す

す説明図である。

【0009】

また、図13は図1の通信コントロール装置にセットされるパラメータを示す説明図、図14は遠隔通報時のデータフォーマットを示す説明図、図15は図1の管理装置から複写機にアクセスする場合のデータフォーマットを示す説明図、図16は図1の管理装置から通信コントロール装置にアクセスする場合のデータフォーマットを示す説明図、図17は図1の通信コントロール装置から複写機にアクセスする場合のデータフォーマットを示す説明図である。

【0010】

また、図18は図1の複写機の遠隔通報処理を説明するためのフローチャート、図19は図18の遠隔通報キーによる遠隔通報処理を詳しく説明するためのフローチャート、図20は図18の自己診断異常による遠隔通報処理を詳しく説明するためのフローチャート、図21は図18の事前警告による遠隔通報処理を詳しく説明するためのフローチャート、図22は図1の通信コントロール装置からアクセスされた場合の複写機の遠隔通報処理を説明するためのフローチャート、図23は図22のリード要求処理を詳しく説明するためのフローチャート、図24は図22のライト要求処理を詳しく説明するためのフローチャート、図25は図22のエグゼキュート要求処理を詳しく説明するためのフローチャートである。

【0011】

また、図26は図1の通信コントロール装置と複写機のアイドル状態の通信シーケンスを示す説明図、図27は図1の通信コントロール装置と複写機の遠隔通報時の通信シーケンスを示す説明図、図28は図1の通信コントロール装置と複写機の通報結果報告時の通信シーケンスを示す説明図、図29は図1の管理装置又は通信コントロール装置が複写機にアクセスした場合の通信コントロール装置と複写機の通信シーケンスを示す説明図、図30は図1の複写機のジャム検知処理を説明するためのフローチャートである。

【0012】

図1において、各ユーザサイトUS1、US2には画像形成装置として1また

は複数の複写機（PPC）100や不図示のプリンタなどが設置され、これらの複写機100等は各ユーザサイトUS1、US2毎に設置された通信コントロールユニット200に接続されている。各通信コントロールユニット200はセンタの管理装置400に対して、公衆回線網302を介して接続されている。また、ここではユーザサイトU1では電話機206aが、ユーザサイトU2ではFAX206bがそれぞれ通信コントロールユニット200に接続されている。

【0013】

例えば1台の通信コントロールユニット200に対して最大5台の複写機100等が接続可能であり、通信コントロールユニット200と各複写機100は、RS-485規格によりマルチドロップ接続されている。また、通信コントロールユニット200と各複写機100の間の通信制御は、基本型データ伝送制御手順により行われ、更に、通信コントロールユニット200を制御局とするセントライズド制御のポーリング／セレクトイング方式でデータリンクを確立することにより、任意の複写機100との通信が可能である。各複写機100はアドレス設定スイッチ1031（図4参照）により固有のアドレスが設定可能であり、これによりポーリングアドレス／セレクトイングアドレスが設定される。

【0014】

つぎに、図2を参照して複写機100を概略的に説明すると、この複写機100は一例として、スキャナ101により読み取られた原稿画像の静電潜像を直接感光ドラム102上に形成するアナログ方式で構成されている。感光ドラム102の回りには電子写真プロセスに必要な帯電、現像、転写、クリーニング、定着等の各種機器が配置され、また、用紙の給紙機構が配置されている。このような構成は公知であるのでその詳細な説明を省略する。

【0015】

この複写機100の操作パネルは図3に示すように、タイマキー151と、タイマ表示器152と、プログラムキー153と、プログラム表示器154と、エンタキー155と、テンキー156と、ガイダンスキー157と、ガイダンスキー表示器158と、図4に詳しく示すような表示パネル159と、ガイダンス表示器159aと、寸法変倍キー160と、寸法変倍表示器161と、センタリン

グキー１６２と、センタリング表示器１６３と、綴じ代調整キー１６４と、綴じ代表示器１６５と、両面表示器１６６と、本発明に係る遠隔通報表示器１６８および遠隔通報キー１６９が設けられている。

【００１６】

また、この操作パネルには両面キー１７０と、ページ連写表示器１７１と、ページ連写キー１７２と、消去表示器１７３と、消去キー１７４と、用紙指定変倍表示器１７５と、用紙指定変倍キー１７６と、ズーム変倍キー１７７と、縮小キー１７８と、拡大キー１７９と、等倍キー１８０と、用紙選択キー１８１と、自動用紙選択キー１８２と、濃度調整キー１８３と、自動濃度キー１８４と、クリア・ストップキー１８５と、スタートキー１８６と、割り込みキー１８７と、予熱表示器１８８と、モードクリア・予熱キー１８９が設けられている。

【００１７】

つぎに、図４を参照して複写機１００の制御部を説明すると、複写機１００の制御はＣＰＵ（中央処理装置）１００１を中心として行われる。ＣＰＵ１００１の制御用のプログラムとデータは予めＲＯＭ（リードオンリメモリ）１００２に記憶され、ＲＡＭ（ランダムアクセスメモリ）１００３は中間結果等を記憶するために用いられる。通信インタフェースユニット１００４は複写機１００のデータを図１および図５に示すような通信コントロール装置２００に送信し、また、通信コントロール装置２００からの制御コードと制御データを受信するために用いられる。

【００１８】

A/Dコンバータ１００５はスキャナ１０１のランプ電圧や、トナー濃度制御用のＰセンサの発光電圧および受光電圧や、感光ドラム１０２上の電位を検出するセンサの出力や、自動濃度調整（ＡＤＳ）用のセンサ出力や、ランプ光量センサの出力や、感光ドラム１０２の電流センサの出力や、定着器１０３のサーミスタによる電圧等の各種センサ１００６の出力等をディジタル信号に変換する。なお、定着器１０３のサーミスタによる電圧により、定着温度が所定値以下の場合にはコピー動作が禁止される。

【0019】

CPU1001は図3に示すような操作パネルの各キーや、人体検知センサや、遠隔通信可／不可切り換え用のDIPスイッチ（SW）等の操作部1010からの各入力を取り込み、電源投入時に遠隔通信許可スイッチ1032がオンの場合に、管理装置400との間の遠隔通信制御が行われ、スイッチ1032がオフの場合にはこの遠隔通信制御は行われない。CPU1001はまた、図3に示すような操作パネルの各表示器に対して表示制御信号を出力する。

【0020】

光学系制御ユニット1011はスキャナ101の露光ランプ1012を制御し、高圧電源ユニット1013は図2に示す電子写真プロセスに必要な帯電チャージャや、分離チャージャや、転写チャージャや、PTC（転写前チャージャ）や現像バイアス等の負荷1014に電源を供給する。また、モータ制御ユニット1015はメインモータ1016の制御を行い、ヒータ制御ユニット1017は定着器103のヒータ1018を制御する。センサ感度ユニット1021はランプ光量センサや、ADSセンサやPセンサ1022の各受光ゲインとPセンサの発光電圧を制御するために用いられる。

【0021】

つぎに、図5を参照して通信コントロール装置200を詳細に説明すると、このユニット200の制御も同様に、CPU201を中心として行われる。CPU201の制御用のプログラムとデータは予めROM202に記憶され、RAM203はバッテリー（BATT）203aによりバックアップされて中間結果等を記憶するために用いられる。装置200はまた、データを切り替え部207及び公衆回線302を介して送受信するためのモデム204と、各複写機100との間でデータを送受信するためのRS-485規格のインタフェース回路205を有し、また、切り替え部207には電話機206が接続可能である。また、トータルカウンタ値自動発呼スイッチ208と時計209が設けられている。

【0022】

このような構成において、通信コントロール装置200は複写機100のデータを収集して公衆回線302を介してセンタの管理装置400に伝送し、また、

管理装置400からの制御コードとデータを複写機100に送出する(図1)。また、複写機100のAC電源コントロールユニット1013に対して複写機100の電源をオン、オフ制御したり、複数の複写機100の識別や遠隔通信の調停を行ったり、さらに切り替え器207により管理装置400との間の通信又は電話機206による通話を切り替える。

【0023】

管理装置400は図6に詳しく示すように、各種処理を実行するホストコンピュータ401と、管理データを格納するための外部記憶装置402と、複写機100との間でデータを公衆回線302を介して送受信するためのモデム403と、表示用ディスプレイ404と、キーボード405とプリンタ406などで構成されている。

【0024】

次に図7を参照して遠隔通報キーによる遠隔通報について説明する。まず、複写機100の操作部1010の遠隔通報キー169が押されると、その複写機100から通信コントロール装置200に対して「遠隔通報キーによる遠隔通報データ」が送信され、通信コントロール装置200はこれを受信すると、装置200内に予め設定されている管理装置400の電話番号(公衆回線網302)に発呼し、回線が確立すると管理装置400に対して「遠隔通報キーによる遠隔通報データ」を送信する。

【0025】

管理装置400は通常、サービス拠点などに配置され、また、このとき通信コントロール装置200から管理装置400に送信されるデータは、通信コントロール装置200が複写機100から受信する複数種類のデータの内、装置200内に予め設定されている種類のデータのみである。この設定は管理装置400から公衆回線網302を介して通信コントロール装置200に対して行われる。

【0026】

通信コントロール装置200は管理装置400に対して上記データの送信を完了すると、送信元の複写機100に対して、通信コントロール装置200と管理装置400の間の通信結果を示す通信結果報告を送信する。これにより送信元の

複写機100は、通信が正常に終了したか、又は異常により通信ができなかったかを知ることができる。

【0027】

複写機100は通常、自己診断機能を有し、定着温度の異常を検知した場合や、各調整箇所の電子ボリュームによる調整が不能な場合など、複写機100が危険状態又は使用不能な状態になった場合には、「エラー」や「サービスマンコール」のような方法でユーザやサービスマンに知らせることができる。図8に示すように、複写機100はこのような自己診断機能により異常を検知した場合には、その複写機100から通信コントロール装置200に対して「自己診断異常による遠隔通報データ」が送信され、通信コントロール装置200はこれを受信すると、同様に管理装置400に対して「自己診断異常による遠隔通報データ」を送信し、また、送信元の複写機100に対して通信結果報告を送信する。

【0028】

更に、自己診断機能により、異常状態に至ってはいないがそれにごく近い場合など、メンテナンスを行った方が好ましいと複写機100が判断した場合には、図9に示すようにその複写機100から通信コントロール装置200に対して「事前警告による遠隔通報データ」が送信され、通信コントロール装置200はこれを受信すると、同様に管理装置400に対して「事前警告による遠隔通報データ」を送信する。なお、この場合には送信元の複写機100に対して通信結果報告を送信しない。

【0029】

ここで、「自己診断異常による遠隔通報データ」の場合には必然的にその複写機100は「使用不可状態」になっているが、「事前警告による遠隔通報データ」の場合にはその複写機100は「使用可能状態」であり、通信中であっても原稿がセットされスタートキーが押下されれば複写動作を行う。但し、この複写処理により複写機100のコントローラの負担が重い場合や、送信データ中に含まれる事前警告の内容が複写動作により変更されて整合しなくなる可能性がある場合には通信を中断するようにしてもよい。

【0030】

また、「事前警告による遠隔通報データ」は緊急性が「自己診断異常による遠隔通報データ」より低いので、これを受信した通信コントロール装置200は通信装置400に対して直ぐに送信せず、通信コントロール装置200に接続されている電話機/FAX206の利用頻度が小さい時間帯や、公衆回線302のトラフィック量が少ない時間帯など、通信に都合がよい時刻に送信を行う。この送信時刻は通信装置400から通信コントロール装置200に対して予め設定可能である。

【0031】

次に図10を参照して通信装置400から複写機100に対してアクセスする処理について説明する。この処理は目的別に大別して、図10(a)に示すリード要求処理と、図10(b)に示すライト要求処理と、図10(c)に示すエグゼキュート要求処理の3種類がある。リード要求処理は複写機100内のロギングデータ、各種設定値、各種センサの出力値などを読み出す処理であり、ライト要求処理は管理装置400から書き換えデータを複写機100に送って複写機100のデータを書き換える処理であり、エグゼキュート要求処理は複写機100に対してテスト動作などを行わせる処理である。

【0032】

いずれの処理においても、図10(a)(b)に示すように管理装置400から目的の複写機100が接続されている通信コントロール装置200にダイヤルして上記の要求を送信し、この要求を受信した通信コントロール装置200が目的の複写機100に対して上記の要求を送信する。これを受信した複写機100は、要求内容を処理し、その後に要求に対する応答を通信コントロール装置200に送信する。通信コントロール装置200はこの応答を管理装置400に送信し、これにより1つの処理単位が終了する。

【0033】

次に図11を参照して通信装置400から通信コントロール装置200に対してアクセスする処理について説明する。この処理も同様に目的別に大別して、図11(a)に示すリード要求処理と、図11(b)に示すライト要求処理と、図

11(c)に示すエグゼキュート要求処理の3種類がある。リード要求処理は通信コントロール装置200内の設定パラメータやステータスを読み出す処理や、予め通信コントロール装置200が複写機100から読み出していた複写機100内部の情報を読み出す処理である。また、ライト要求処理は通信コントロール装置200にパラメータを送って書き換える処理であり、エグゼキュート要求処理は通信コントロール装置200に対して機能チェックなどのテスト動作などを行わせる処理である。

【0034】

いずれの処理においても、図11に示すように管理装置400から通信コントロール装置200にダイヤルして上記の要求を送信し、この要求を受信した通信コントロール装置200が要求内容を処理し、その後に要求に対する応答を管理装置400に送信し、これにより1つの処理単位が終了する。

【0035】

次に図12を参照して管理装置400は関係なく、通信コントロール装置200から複写機100に対してアクセスする処理について説明する。この処理は示すリード要求処理のみであり、通信コントロール装置200から複写機100に対してリード要求を送信し、複写機100内部の情報を読み出す。この情報は更に、図11(a)に示すリード要求処理において管理装置400によりリードされる。

【0036】

通信コントロール装置200に設定されるパラメータとしては、図13に示すようにアドレス「1」～「5」の複写機のブロック毎にその機種番号とシリアル番号が登録され、通信コントロール装置200はこの情報を複写機100からの通報時に付加して管理装置400に送信したり、管理装置400からのアクセス時に選択すべき複写機100を決定するために用いる。また、「遠隔通報キーによる遠隔通報」、「自己診断異常による遠隔通報」、「事前警告による遠隔通報」のブロック毎に、通話先電話番号、リダイヤル回数、リダイヤル間隔時間、管理装置400への通報時の情報送信の可否が登録され、「事前警告による遠隔通報」には更に管理装置400への通報時間(時分)が登録される。

【0037】

また、「トータルカウンタ値の自動通信処理」のブロックには、トータルコピー枚数カウンタ値収集時刻、通報先電話番号、通報日時が登録され、「電話設定」のブロックには、ダイヤルモード設定（パルス又はトーン）、ダイヤルパルス間隔設定が登録される。更に、上記のパラメータの各ブロックにはチェックサムが付加され、これにより通信コントロール装置200の誤動作やバックアップ用のバッテリーの消耗などによりパラメータの値が書き換えられたり、消失した場合にこれを検知することができる。これらのパラメータは管理装置400が公衆回線302を介して書き込んでもよく、パラメータ設定用の携帯型専用装置を直接に通信コントロール装置200に接続して書き込んでもよく、操作部を通信コントロール装置200に設けて書き込んでもよい。

【0038】

次に図14を参照して遠隔通報時のデータフォーマットについて説明する。複写機100から通信コントロール装置200への遠隔通報データは、図14（a）に示すように先頭のフィールドの通報理由コードと、それに続くジャム発生回数と、自己診断異常発生回数と、コピー枚数と複写機状態の各フィールドにより構成されている。先頭のフィールドの通報理由コードは「遠隔通報キーによる遠隔通報」か、「自己診断異常による遠隔通報」か又は「事前警告による遠隔通報」を示し、また、最後のフィールドの「複写機状態」は、トナー、オイル、コピー用紙等の消耗品の状況や、各種センサの出力値、各種調整箇所の設定値、ユニットの接続状態などの情報である。

【0039】

通信コントロール装置200から管理装置400への遠隔通報データは、図14（b）に示すように先頭のフィールドの複写機の機種番号及びシリアル番号と、複写機100から送信された通報理由コード、自己診断異常発生回数及び複写機状態と、発生時刻の各フィールドにより構成されている。最後のフィールドの「発生時刻」は通報要因が発生した時刻であり、通信コントロール装置200内の時計209が示す時刻である。ここで、管理装置400に送信されるデータの種類は、通信コントロール装置200に設定されているパラメータに応じて異

なり、図14(b)は一例として、自己診断異常発生回数と複写機状態のみを送信することがパラメータとして設定されている場合を示している。

【0040】

管理装置400から通信コントロール装置200への遠隔通報データは、図14(c)に示すように「通報結果報告コード」と「通報結果報告の内容」の各フィールドにより構成されている。

【0041】

次に図15を参照して管理装置400から複写機100へのアクセスする場合のリード要求処理時、ライト要求処理時及びエグゼキュート要求処理時の各データフォーマットについて説明する。まず、図15(a)に示すようにリード要求処理時の管理装置400から通信コントロール装置200へのフォーマットは、アクセス対象の複写機100の機種番号及びシリアル番号と、リード要求コードと項目コードの各フィールドにより構成され、通信コントロール装置200から複写機100へのフォーマットは、上記の複写機100の機種番号及びシリアル番号を除いたリード要求コードと項目コードの各フィールドにより構成されている。

【0042】

そして、複写機100から通信コントロール装置200へのフォーマットは、上記のリード要求コードと項目コードの先頭にリード応答コードを加えた各フィールドにより構成され、通信コントロール装置200から管理装置400へのフォーマットは、上記のリード応答コード、リード要求コード及び項目コードの先頭に再びアクセス対象の複写機100の機種番号及びシリアル番号を加えた各フィールドにより構成されている。

【0043】

次に図15(b)を参照してライト要求処理時のフォーマットを、図15(a)に示すリード要求処理時と異なる点について説明する。管理装置400から通信コントロール装置200へのフォーマットと、通信コントロール装置200から複写機100へのフォーマットでは、項目コードの後に「書き込むデータ」が付加され、また、複写機100から通信コントロール装置200へのフォーマッ

トと、通信コントロール装置200から管理装置400へのフォーマットでは、読み出しデータの代わりに「書き込んだデータ」が付加される。但し、通常では、複写機100が受信する「書き込むデータ」と複写機100が送信する「書き込んだデータ」は一致するが、後述(図24)するように受信したデータが有効範囲をはずれていた場合などには、境界値に丸めてデータを書き込むこともあるので、このような場合には一致しない。

【0044】

次に図15(c)を参照してエグゼキュート要求処理時のフォーマットを、図15(b)に示すライト要求処理時と異なる点について説明すると、管理装置400から通信コントロール装置200へのフォーマットと、通信コントロール装置200から複写機100へのフォーマットでは、項目コードだけでは動作対象が特定することができない場合に、項目コードの後に「書き込むデータ」の代わりに「動作内容補足」が追加される。また、複写機100から通信コントロール装置200へのフォーマットと、通信コントロール装置200から管理装置400へのフォーマットでは、「書き込んだデータ」の代わりに「動作内容補足」が追加される。

【0045】

図16(a)～(c)はそれぞれ、管理装置400から通信コントロール装置200へのアクセスする場合のリード要求処理時、ライト要求処理時及びエグゼキュート要求処理時の各データフォーマットを示している。この各処理をそれぞれ図15(a)～(c)に示す「管理装置400から複写機100へのアクセスする場合の各処理」と異なる点について説明すると、「機種番号とシリアル番号」の代わりに、「通信コントロール装置200のコード」が設けられている。

【0046】

また、図17(a)(b)にそれぞれ示す「通信コントロール装置200から複写機100へアクセスする場合」と「複写機100から通信コントロール装置200へアクセスする場合」には、図15(a)に示した「管理装置400から複写機100へアクセスする場合における通信コントロール装置200と複写機100との間のフォーマット」と同一である。したがって、複写機100は管理

装置400からのアクセスと、通信コントロール装置200からのアクセスを区別する必要が無く、同等に扱うことができる。

【0047】

次に図18～図21を参照して複写機100の遠隔通報動作を説明する。まず、図18において通信許可スイッチ1032がオンの場合に（ステップS1）、遠隔通報キー160が押下されると図19に詳しく示す「遠隔通報キーによる遠隔通報」を実行し（ステップS2→S3）、自己診断異常が発生すると図20に詳しく示す「自己診断異常による遠隔通報」を実行し（ステップS4→S5）、事前警告状態が発生すると図21に詳しく示す「事前警告状態による遠隔通報」を実行する（ステップS6→S7）。

【0048】

図19に示す「遠隔通報キーによる遠隔通報」では、まず、通信コントロール装置200に対して「遠隔通報キーによる遠隔通報データ」を送信し（ステップS11）、次いで通信コントロール装置200が無応答か否かなどにより、正常に送信されたか否かを判断する（ステップS12）。そして、YESの場合にはステップS13以下に進み、他方、NOの場合にはステップS16に進んで「自動通報失敗」を表示してこの処理を終了する。

【0049】

ステップS13以下では、まず、タイムアウト用タイマをリセットし（ステップS13）、次いで通信コントロール装置200からの通報結果報告を待つ（ステップS14）。そして、この例ではタイムアウト時間を3分として3分以内に通報結果報告を受信しない場合にはステップS16に進んで「自動通報失敗」を表示し、他方、受信した場合にはステップS17に進んでその通報結果報告が「自動通報完了」か否かを判断する。そして、「自動通報完了」でない場合にはステップS16に進んで「自動通報失敗」を表示し、他方、「自動通報完了」の場合にはステップS18に進んでその旨を表示する。

【0050】

図20に示す「自己診断異常による遠隔通報」では、ステップS25におけるタイムアウト時間が20分であることを除き、他の処理（ステップS21～S2

4、S26～S28)は、図19に示す「遠隔通報キーによる遠隔通報」の処理と同一である。図21に詳しく示す「事前警告状態による遠隔通報」では、「事前警告状態による遠隔通報データ」を送信し(ステップS31)、この処理を終了する。

【0051】

次に図22～図25を参照して通信コントロール装置200によりアクセスされた場合の複写機100の動作を説明する。先ず、図22において通信許可スイッチ1032がオンの場合であって通信インタフェースユニット1004に受信データがあるときに、その受信データの先頭フィールドの要求処理コードを判断する(ステップS41～ステップS43)。そして、リード要求の場合には図23に詳しく示すリード要求処理を実行し(ステップS44→S45)、ライト要求の場合には図24に詳しく示すライト要求処理を実行し(ステップS46→S47)、エグゼキューション要求の場合には図25に詳しく示すエグゼキューション要求処理を実行し(ステップS48→S49)、また、いずれのコードでもない場合にはエラーコードを通信コントロール装置200に返送する(ステップS50)。

【0052】

図23に示すリード要求処理では、受信した項目コードが正しい場合には要求データを返送し(ステップS51→S52)、他方、正しくない場合にはエラーコードを返送する(ステップS51→S53)。

【0053】

図24に示すライト要求処理では、受信した項目コードが正しくない場合にはエラーコードを返送し(ステップS61→S67)、他方、正しい場合にはステップS61からステップS62以下に進む。ステップS62以下では、先ず、書き込む値が有効範囲内か否かをチェックし(ステップS62)、有効範囲内の場合には受信データをそのまま書き込み(ステップS63)、次いで書き込んだ値を通信コントロール装置200に返送し(ステップS64)、次いで、この処理を終了する。

【0054】

他方、ステップS62において書き込む値が有効範囲内でない場合には、その項目が有効範囲の境界値にデータを丸めてよい項目か否かを判断し（ステップS65）、YESの場合にはその値を丸めて境界値に書き込み（ステップS66）、次いで書き込んだ値を通信コントロール装置200に返送する（ステップS64）。他方、NOの場合にはエラーコードを返送する（ステップS67）。ここで、データを有効範囲の境界値に丸めてよいか否かは、予め項目毎に設定されており、例えば定着温度のように有効範囲内であっても書き換えの影響が大きい項目や、数値の大きさに意味がないサービスセンタの電話番号などの項目は境界値への丸めが禁止され、他方、オートリセット時間のように画質に影響がない項目は境界値への丸めが許可される。ここで、オートリセット時間を可能な限り長時間に設定したい場合には、書き込む値を設定可能な桁数の最大値に設定すれば、その最大値が複写機100側で選択される。

【0055】

図25に示すエグゼキューション要求処理では、受信した項目コードが正しくない場合にはエラーコードを返送し（ステップS71→S76）、他方、正しい場合にはステップS71からステップS72以下に進む。ステップS72以下では、まず、その項目が「動作内容補足が必要な項目」か否かを判断し（ステップS72）、「動作内容補足が必要な項目」でない場合には指定動作を実行し（ステップS73）、次いで、動作結果情報を通信コントロール装置200に返送し（ステップS74）、次いで、この処理を終了する。

【0056】

他方、ステップS72においてその項目が「動作内容補足が必要な項目」の場合には、その動作内容補足が有効範囲内か否かをチェックし（ステップS72）、有効範囲内の場合にはステップS73に進んで受信データをそのまま書き込み（ステップS63）、他方、有効範囲内でない場合にはエラーコードを返送する（ステップS67）。

【0057】

図26は一例として、複写機100が5台の場合のアイドル状態の通信コント

ロール装置200と複写機100の間の通信プロトコルを示している。通信コントロール装置200は各複写機100のポーリングアドレスを用いて、順次ポーリングシーケンスを実行し、自己のポーリングアドレスでポーリングされた複写機100は、送信テキストがない場合には否定応答（EOT）を通信コントロール装置200に返送する。ここで、通信コントロール装置200は他の通信処理がない通常の状態においてこのポーリングサイクルを繰り返している。

【0058】

図27は一例として、アドレス「2」の複写機100において送信データがある場合の通信コントロール装置200と複写機100の間の通信プロトコルを示し、ポーリングアドレス「2」でポーリングされた複写機100は、送信テキストをRS-485上に送出する。これにより送信テキストがアドレス「2」の複写機100から通信コントロール装置200に送信され、次いで確認（ACK）が通信コントロール装置200からアドレス「2」の複写機100に送信され、次いで否定応答（EOT）がアドレス「2」の複写機100から通信コントロール装置200に返送される。

【0059】

図28は一例として、通信コントロール装置200からアドレス「5」の複写機100に対して通信結果報告のテキストを送信する場合の通信コントロール装置200と複写機100の間の通信プロトコルを示し、通信コントロール装置200はポーリングを終結した後、目的の複写機100のセレクトディングアドレス「5」を用いてセレクトディングシーケンスを送信する。次いで確認（ACK）がアドレス「5」の複写機100から通信コントロール装置200に送信され、次いで送信テキストが通信コントロール装置200からアドレス「5」の複写機100に送信され、次いで確認（ACK）がアドレス「5」の複写機100から通信コントロール装置200に送信され、次いで否定応答（EOT）が通信コントロール装置200からアドレス「5」の複写機100に送信される。テキスト送信の終了後は、元のポーリングサイクルに復帰する。

【0060】

図29は一例として、管理装置400又は通信コントロール装置200からア

ドレス「3」の複写機100にアクセスした場合の通信コントロール装置200と複写機100の間の通信プロトコルを示している。通信コントロール装置200が目的の複写機100をセレクトイングして、リード要求、ライト要求、エグゼキュート要求のいずれかのテキストを送信し、この直後にアドレス「3」の複写機100に対してポーリングを行う。なお、このシーケンスは実際には、図26に示すポーリングサイクル中に挿入される。

【0061】

次に図30を参照して複写機100のジャム検知処理を説明する。図30に示す処理は、複写機100の機械内部状態が変化する毎に実行され、先ず、ステップS101においてジャム発生時にはステップS102以下に進み、他方、ジャム発生時でない場合にはステップS107に進んで「連続ジャムカウンタ」をクリアし、次いでこの処理を終了する。ステップS102以下では、先ず、「連続ジャムカウンタ」をカウントアップし（ステップS102）、次いで「連続ジャムカウンタ」のカウント値が所定値と一致するか否かを判断する（ステップS103）。そして、一致する場合には前述した手順に基づいてアラーム通報処理を実行し（ステップS104）、他方、一致しない場合には「連続ジャムカウンタ」のカウント値が所定値を越えていれば所定値にセットしてアラーム通報処理を実行しない（ステップS105、S106）。

【0062】

次に図31、図32を参照して第2の実施形態のジャム検知処理を説明する。図31に示す処理は、複写機100の機械内部状態が変化する毎に実行され、他方、図32に示す処理はタイマにより定期的に実行される。図31に示す処理では、先ず、ステップS202においてジャム発生時にはステップS203以下に進み、他方、ジャム発生時でない場合にはステップS205に進んで「長時間ジャムカウンタ状態」を「未カウント状態」（＝0）にセットし、次いでこの処理を終了する。他方、ステップS203、S204では、「長時間ジャムカウンタ状態」が未カウント状態であればカウント状態（＝1）にセットし、次いでこの処理を終了する。

【0063】

図32に示すタイマ処理では、先ず、「長時間ジャムカウンタ状態」が「カウント状態」(=1)か否かを判断し(ステップS210)、「カウント状態」の場合にはステップS211以下に進み、他方、「カウント状態」でない場合にはステップS215に進んで「長時間ジャムカウンタ状態」をクリアし、次いでこの処理を終了する。

【0064】

他方、ステップS211以下では、先ず、「長時間ジャムカウンタ」をカウントアップし(ステップS211)、次いで「長時間ジャムカウンタ」が所定値を越えているか否かを判断する(ステップS212)。そして、越えていない場合には「長時間ジャムアラーム通報処理」を実行することなくこの処理を終了し、他方、越えている場合には「長時間ジャムアラーム通報処理」を実行し(ステップS213)、次いで「長時間ジャムカウンタ状態」を「カウント終了状態」(=2)にセットすると共に「長時間ジャムカウンタ」をクリアし、次いでこの処理を終了する。

【0065】

図33は第3の実施形態の管理装置(CSS)400に対する機能設定処理を示している。この処理はタイマにより定期的に行われ、先ず、ステップS301において「CSS機能設定」がオンか否かを判断し、オンの場合にはステップS302以下に進み、他方、オンでない場合にはステップS305に進む。ステップS302、S303では前回の「CSS機能設定」がオフであれば、「連続ジャムカウンタ」と「長時間ジャムカウンタ」をクリアすると共に、「長時間ジャムカウンタ状態」を未カウント状態(=0)にセットし、次いでステップS304以下に進む。また、ステップS305ではCSSに対する通信機能や統計処理を全て禁止する「通知禁止処理設定」を行い、次いでステップS304以下に進む。ステップS304では前回の「CSS機能設定」を保存し、次いでこの処理を終了する。

【0066】

【発明の効果】

以上説明したように請求項1記載の発明によれば、ジャム発生回数をカウントして所定値に到達した場合に自動通報を禁止するようにしたので、ジャムトラブル時の無駄な自動通報を防止することができる。

【0067】

請求項2記載の発明によれば、ジャム状態の時間をカウントして所定値に到達した場合に自動通報を禁止するようにしたので、ジャムトラブル時の無駄な自動通報を防止することができる。

【0068】

請求項3記載の発明によれば、通報禁止を動作させない状態から動作させる状態に設定された場合にカウンタをクリアするようにしたので、通報禁止を動作させない状態におけるカウント値による無駄な自動通報を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明に係る画像形成装置管理システムの一実施形態を示すブロック図である。

【図2】

図1の複写機を示す構成図である。

【図3】

図1の複写機の操作パネルを示す構成図である。

【図4】

図1の複写機を詳しく示すブロック図である。

【図5】

図1の通信コントロール装置を詳しく示すブロック図である。

【図6】

図1の管理装置を詳しく示すブロック図である。

【図7】

遠隔通報キーによる遠隔通報時の通信シーケンスを示す説明図である。

【図 8】

自己診断異常による遠隔通報時の通信シーケンスを示す説明図である。

【図 9】

事前警告による遠隔通報時の通信シーケンスを示す説明図である。

【図 10】

図 1 の管理装置から複写機にアクセスする場合の通信シーケンスを示す説明図である。

【図 11】

図 1 の管理装置から通信コントロール装置にアクセスする場合の通信シーケンスを示す説明図である。

【図 12】

図 1 の通信コントロール装置から複写機にアクセスする場合の通信シーケンスを示す説明図である。

【図 13】

図 1 の通信コントロール装置にセットされるパラメータを示す説明図である。

【図 14】

遠隔通報時のデータフォーマットを示す説明図である。

【図 15】

図 1 の管理装置から複写機にアクセスする場合のデータフォーマットを示す説明図である。

【図 16】

図 1 の管理装置から通信コントロール装置にアクセスする場合のデータフォーマットを示す説明図である。

【図 17】

図 1 の通信コントロール装置から複写機にアクセスする場合のデータフォーマットを示す説明図である。

【図 18】

図 1 の複写機の遠隔通報処理を説明するためのフローチャートである。

【図19】

図18の遠隔通報キーによる遠隔通報処理を詳しく説明するためのフローチャートである。

【図20】

図18の自己診断異常による遠隔通報処理を詳しく説明するためのフローチャートである。

【図21】

図18の事前警告による遠隔通報処理を詳しく説明するためのフローチャートである。

【図22】

図1の通信コントロール装置からアクセスされた場合の複写機の遠隔通報処理を説明するためのフローチャートである。

【図23】

図22のリード要求処理を詳しく説明するためのフローチャートである。

【図24】

図22のライト要求処理を詳しく説明するためのフローチャートである。

【図25】

図22のエグゼキューション要求処理を詳しく説明するためのフローチャートである。

【図26】

図1の通信コントロール装置と複写機のアイドル状態の通信シーケンスを示す説明図である。

【図27】

図1の通信コントロール装置と複写機の遠隔通報時の通信シーケンスを示す説明図である。

【図28】

図1の通信コントロール装置と複写機の通報結果報告時の通信シーケンスを示す説明図である。

【図29】

図1の管理装置又は通信コントロール装置が複写機にアクセスした場合の通信コントロール装置と複写機の通信シーケンスを示す説明図である。

【図30】

図1の複写機のジャム検知処理を説明するためのフローチャートである。

【図31】

第2の実施形態のジャム検知処理を説明するためのフローチャートである。

【図32】

第2の実施形態のジャム検知処理を説明するためのフローチャートである。

【図33】

第3の実施形態の自動通報の機能設定処理を説明するためのフローチャートである。

【符号の説明】

100 複写機

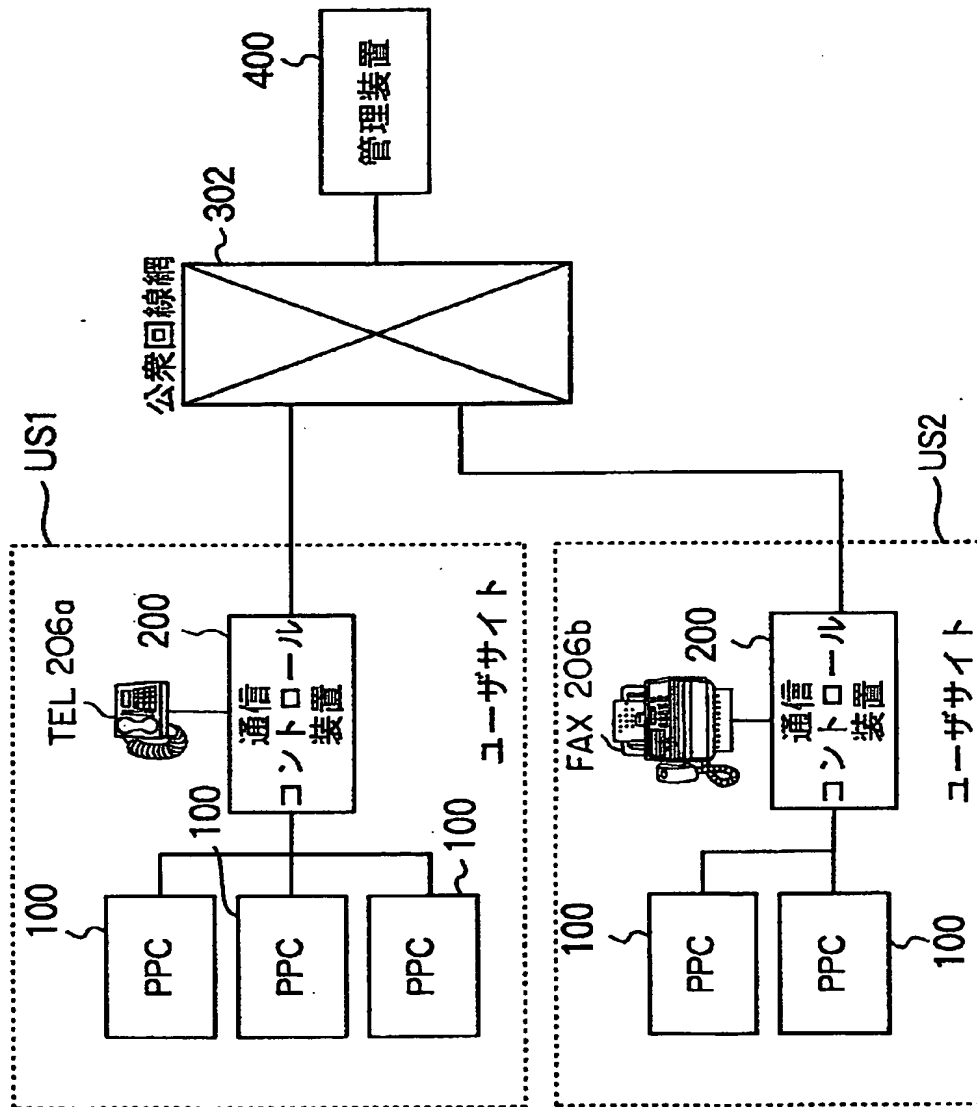
200 通信コントロール装置

400 管理装置

【書類名】 図面

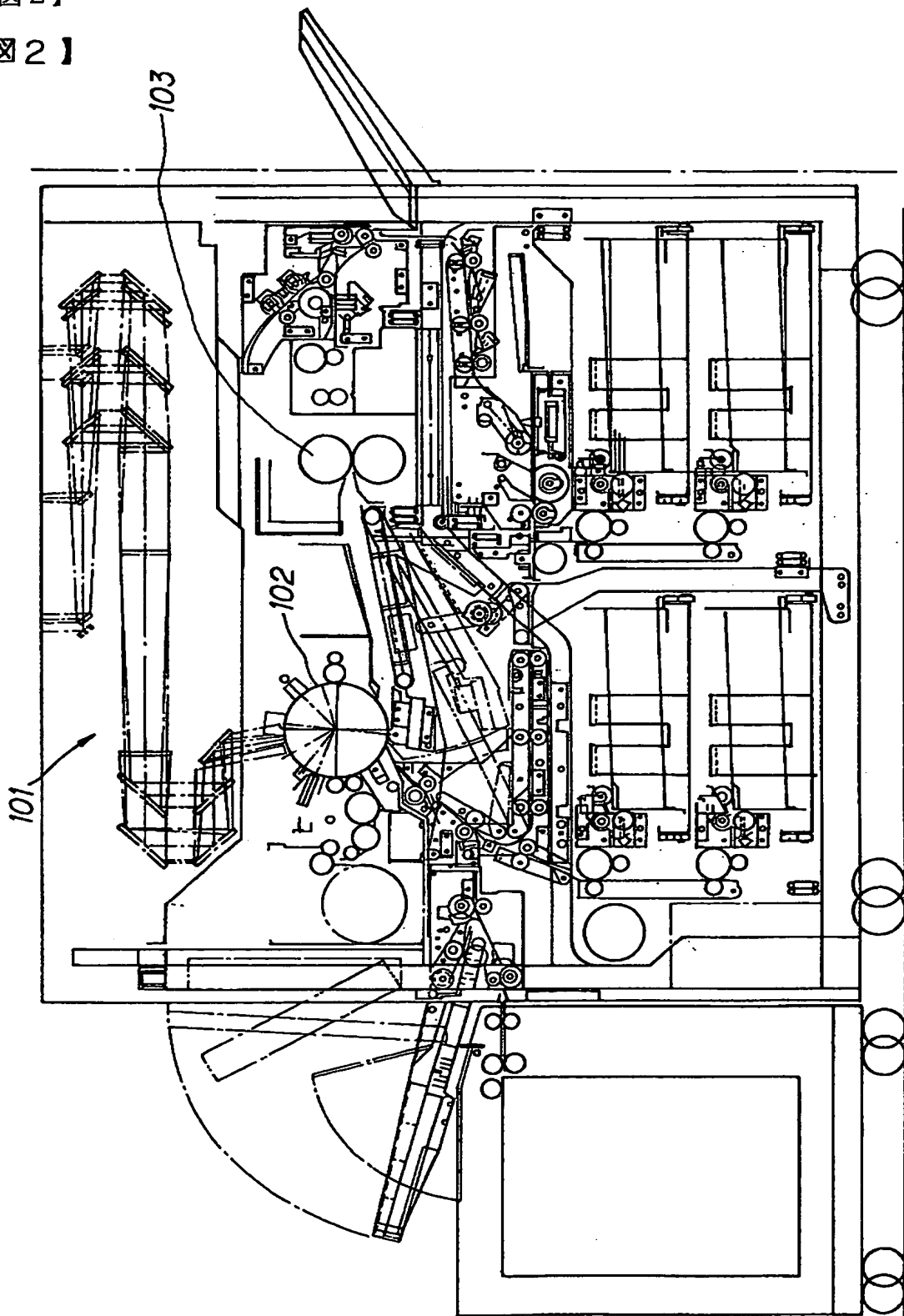
【図1】

【図 1】



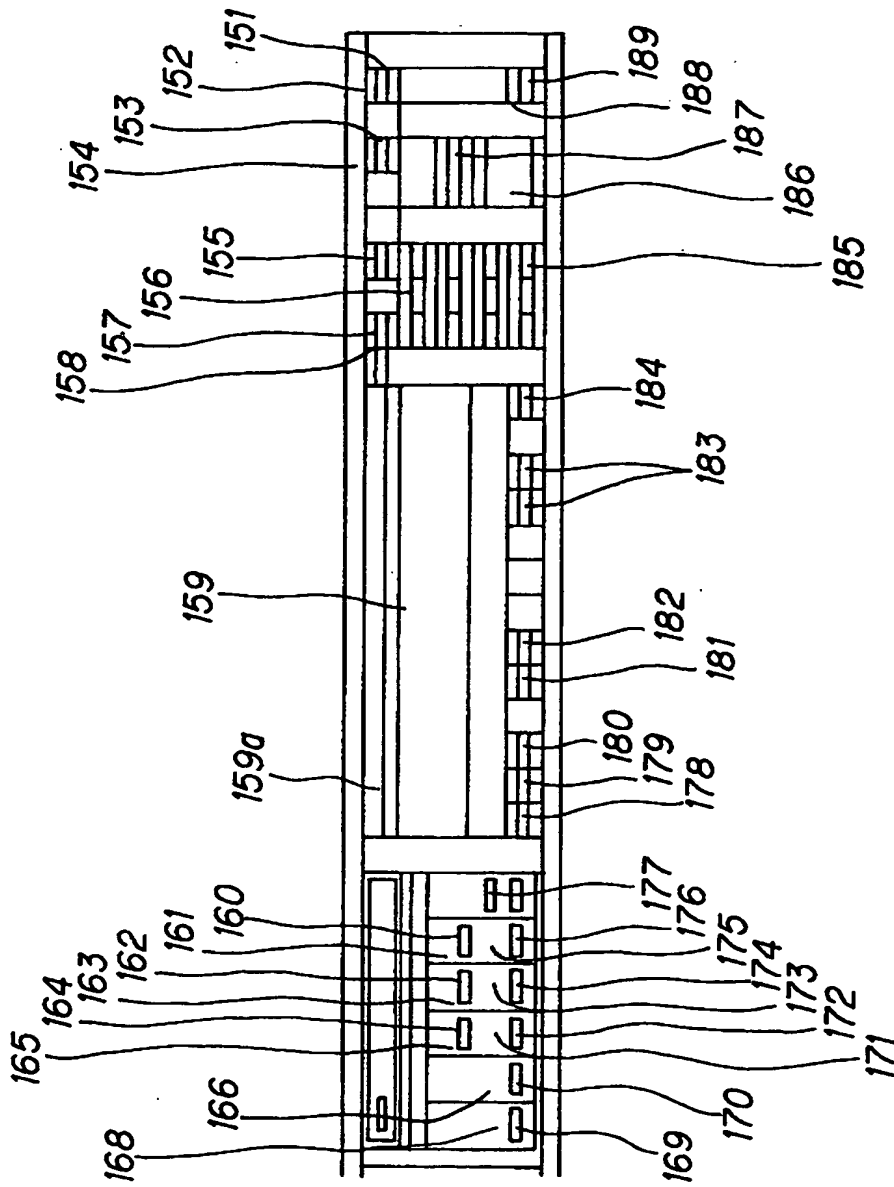
【図2】

【図2】



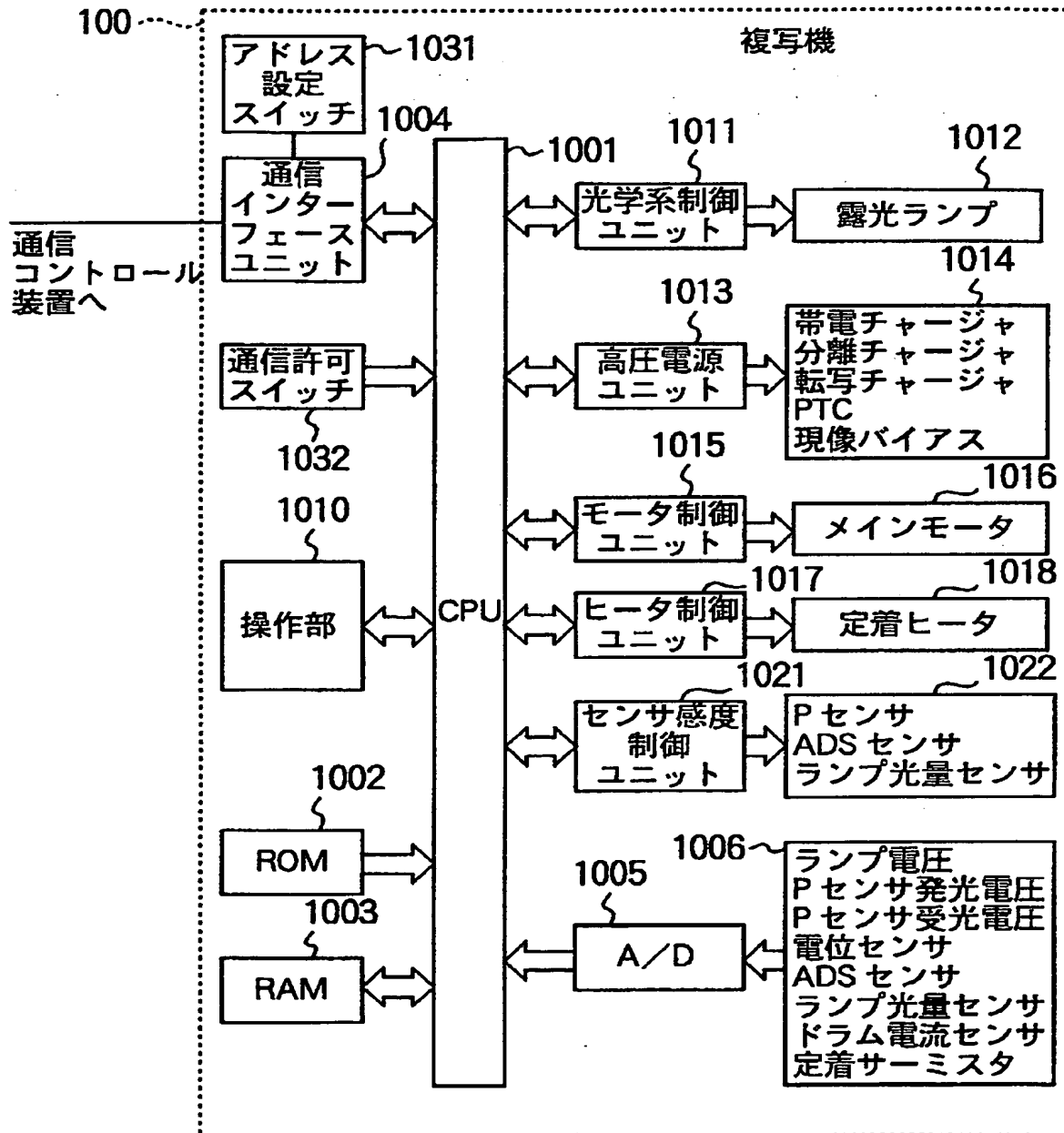
【図3】

【図3】



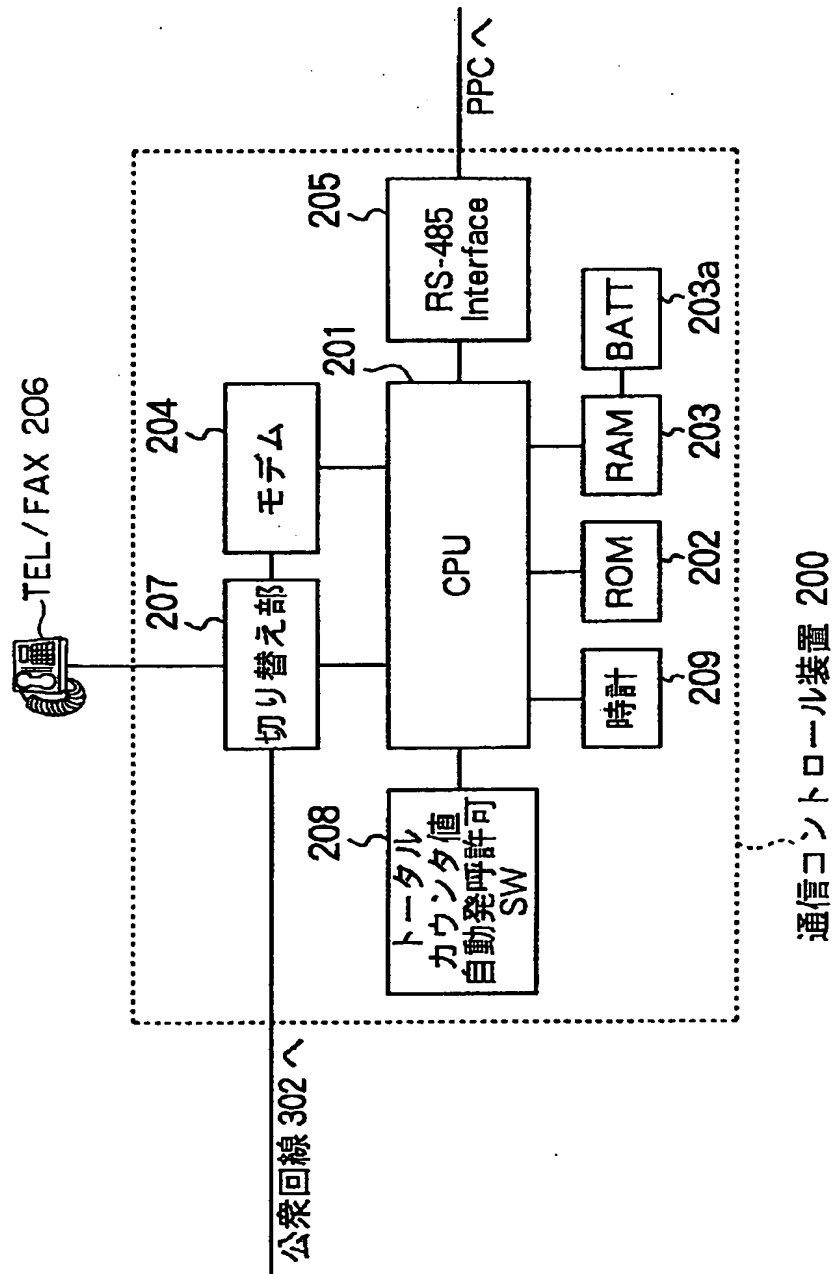
【図 4】

【図 4】



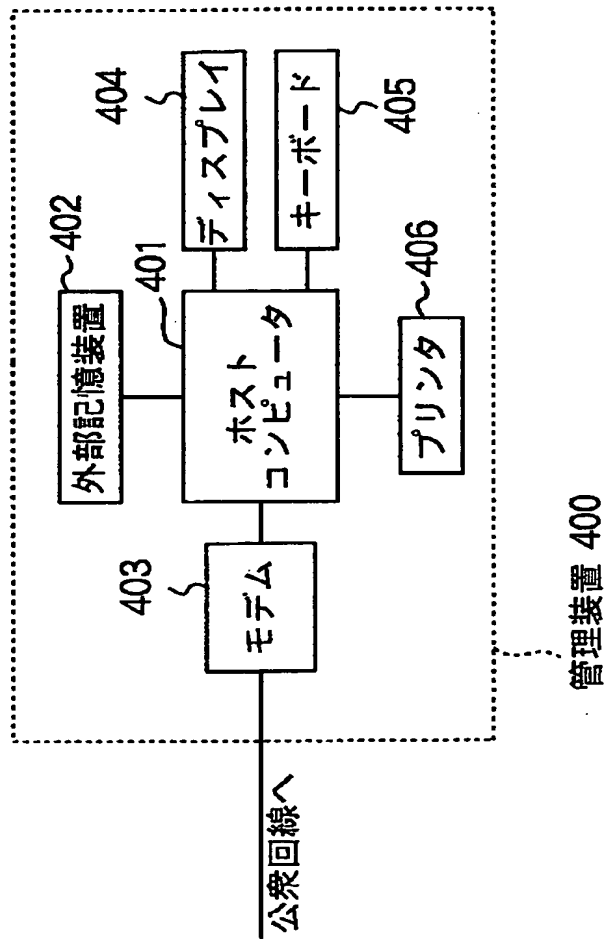
【図 5】

【図 5】



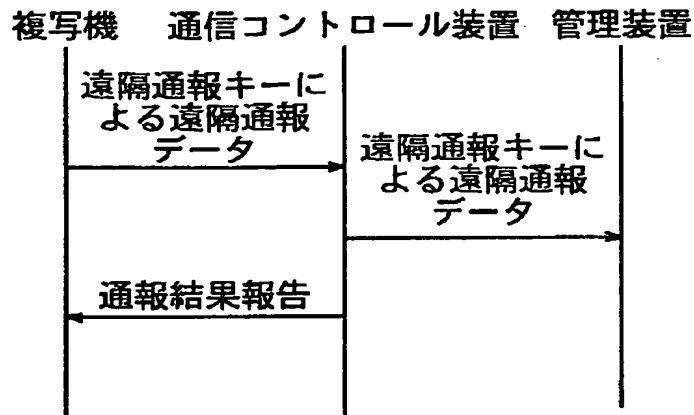
【図6】

【図 6】



【図 7】

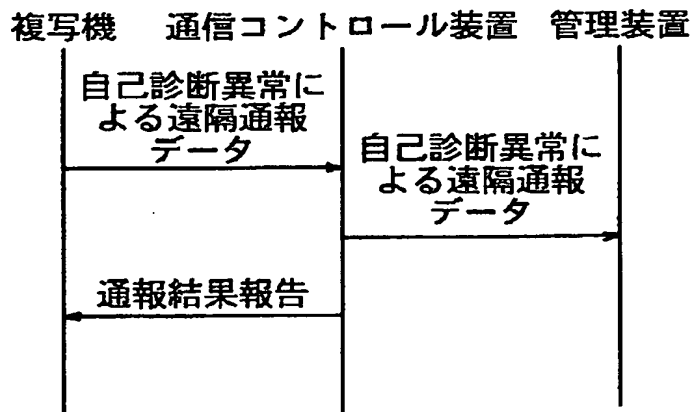
【図 7】



遠隔通報キーによる遠隔通報

【図 8】

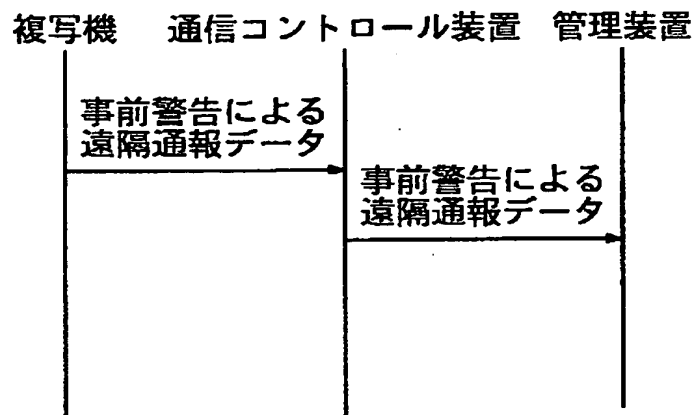
【図 8】



自己診断異常による遠隔通報

【図9】

【図 9】

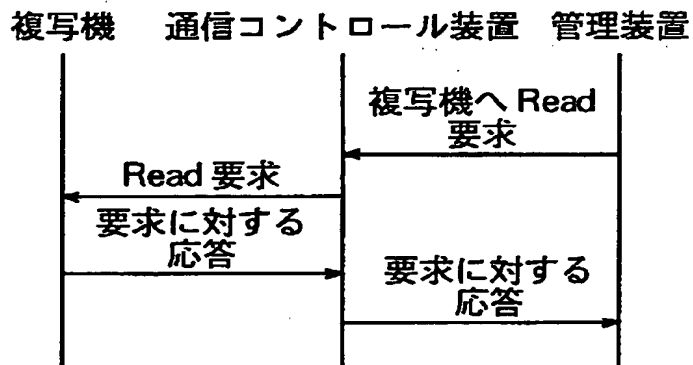


事前警告による遠隔通報

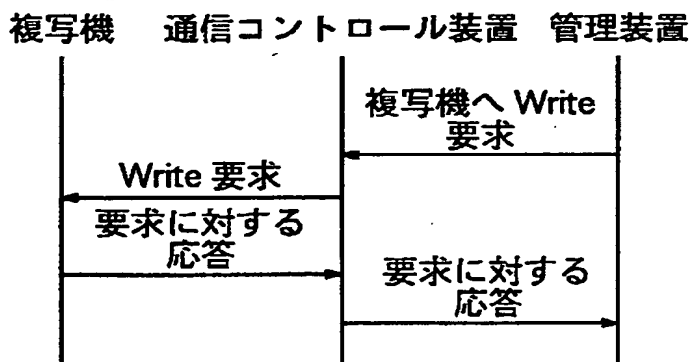
【図10】

【図10】

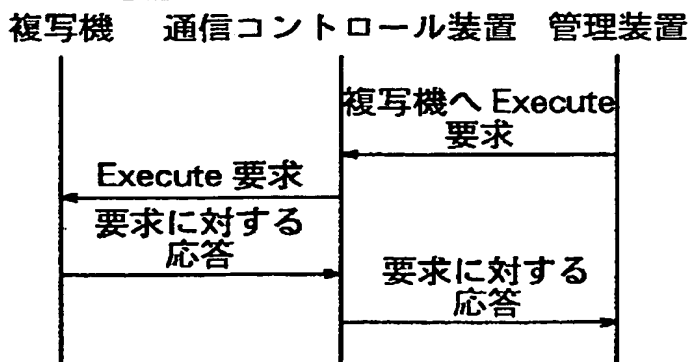
(a) Read 処理



(b) Write 処理



(c) Execute 処理

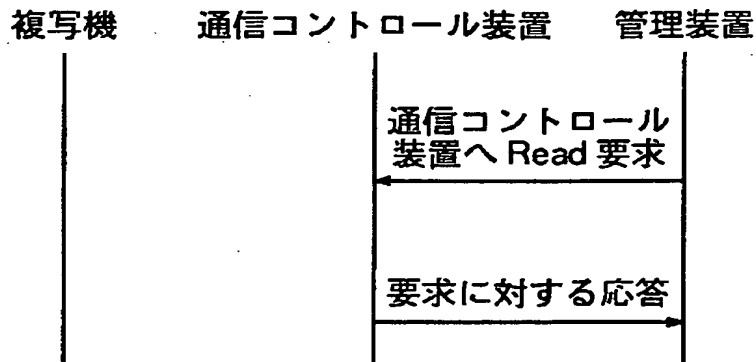


管理装置から複写機へのアクセス

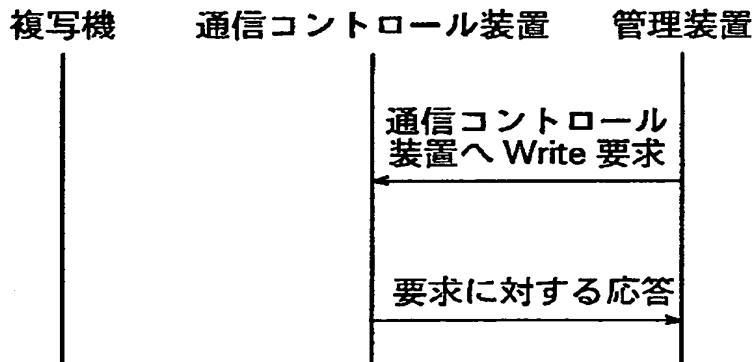
【図 1 1】

【図 1 1】

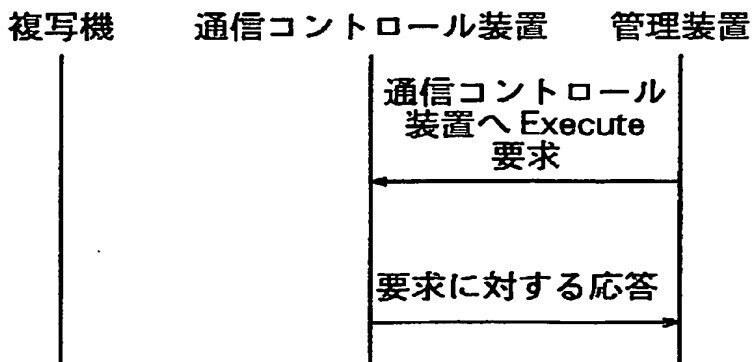
(a) Read 処理



(b) Write 処理



(c) Execute 処理

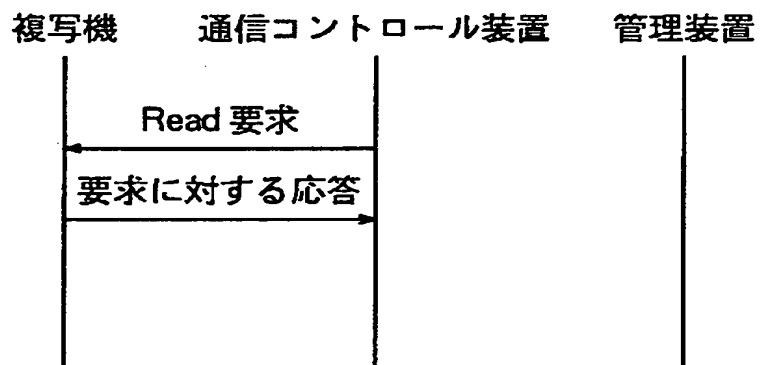


管理装置から通信コントロール装置へのアクセス

【図12】

【図12】

(a) Read 処理



通信コントロールユニットから複写機へのアクセス

【図13】

【図13】

パラメータ内容			データ長
アドレス1の複写機	機種番号		6
	シリアル番号		10
	以上のチェックサム		4
アドレス2の複写機	機種番号		6
	シリアル番号		10
	以上のチェックサム		4
アドレス3の複写機	機種番号		6
	シリアル番号		10
	以上のチェックサム		4
アドレス4の複写機	機種番号		6
	シリアル番号		10
	以上のチェックサム		4
アドレス5の複写機	機種番号		6
	シリアル番号		10
	以上のチェックサム		4
遠隔通報キーによる 遠隔通報	通報先電話番号		32
	リダイヤル回数		2
	リダイヤル間隔時間		3
	管理装置へ通報時の 情報送信の可否	ジャム発生回数	1
		自己診断異常発生回数	1
		コピー枚数	1
		複写機状態	1
	以上のチェックサム		4
自己診断異常による 遠隔通報	通報先電話番号		32
	リダイヤル回数		2
	リダイヤル間隔時間		3
	管理装置へ通報時の 情報送信の可否	ジャム発生回数	1
		自己診断異常発生回数	1
		コピー枚数	1
		複写機状態	1
	以上のチェックサム		4
事前警告による 遠隔通報	通報先電話番号		32
	リダイヤル回数		2
	リダイヤル間隔時間		3
	管理装置へ通報時の 情報送信の可否	ジャム発生回数	1
		自己診断異常発生回数	1
		コピー枚数	1
		複写機状態	1
	管理装置への通報時刻(時：分)		4
以上のチェックサム		4	
トータルカウンタ値 自動通信処理	トータルコピー枚数カウンタ値収集時刻		4
	通報先電話番号		32
	通報日時(日：時：分)		6
	以上のチェックサム		4
電話設定	ダイヤルモード設定(パルス or トーン)		1
	ダイヤルパルス間隔設定		1
	以上のチェックサム		4

【図 1 4】

【図 1 4】

(a)複写機から通信コントロール装置への通報データ

通報理由 コード	ジャム発生回数		自己診断異常発生回数		コピー枚数			複写機状態		
	トータル	箇所 A	箇所 B	トータル	箇所 A	箇所 B	箇所 C	状態 A	状態 B
				種類 A	種類 B	トータル	箇所 A	箇所 B	箇所 C

(b)通信コントロール装置から管理装置への通報データ

機種番号	シリアル 番号	通報理由 コード	自己診断異常発生回数				複写機状態			発生時刻
			トータル	種類	種類	状態	状態	状態		
				A	B				

(c)通信コントロール装置から複写機への通報結果報告

通報結果 報告コード	通報結果報告の内容
---------------	-----------

遠隔通報のデータフォーマットの例

【図15】

【図15】

(a) Read 処理

管理装置→通信コントロール装置

機種 番号	シリアル 番号	Read 要求コード	項目コード
----------	------------	---------------	-------

通信コントロール装置→複写機

Read 要求コード	項目コード
---------------	-------

通信コントロール装置→管理装置

機種 番号	シリアル 番号	Read 応答コード	項目コード	読み出し データ
----------	------------	---------------	-------	-------------

複写機→通信コントロール装置

Read 応答コード	項目コード	読み出し データ
---------------	-------	-------------

(b) Write 処理

管理装置→通信コントロール装置

機種 番号	シリアル 番号	Write 要求コード	項目コード	書き込む データ
----------	------------	----------------	-------	-------------

通信コントロール装置→複写機

Write 要求コード	項目コード	書き込む データ
----------------	-------	-------------

通信コントロール装置→管理装置

機種 番号	シリアル 番号	Write 応答コード	項目コード	書き込んだ データ
----------	------------	----------------	-------	--------------

複写機→通信コントロール装置

Write 応答コード	項目コード	書き込んだ データ
----------------	-------	--------------

(c) Execute 処理

管理装置→通信コントロール装置

機種 番号	シリアル 番号	Execute 要求コード	項目コード	動作内容 補足
----------	------------	------------------	-------	------------

通信コントロール装置→複写機

Execute 要求コード	項目コード	動作内容 補足
------------------	-------	------------

通信コントロール装置→管理装置

機種 番号	シリアル 番号	Execute 応答コード	項目コード	動作結果 情報
----------	------------	------------------	-------	------------

複写機→通信コントロール装置

Execute 応答コード	項目コード	動作結果 情報
------------------	-------	------------

管理装置から複写機へのアクセス時のデータフォーマット

【図 16】

【図 16】

(a) Read 処理

通信コントロール装置へのアクセス

通信コントロール 装置コード	Read 要求コード	項目コード
-------------------	---------------	-------

通信コントロール装置からの応答

通信コントロール 装置コード	Read 応答コード	項目コード	読み出し データ
-------------------	---------------	-------	-------------

(b) Write 処理

通信コントロール装置へのアクセス

通信コントロール 装置コード	Write 要求コード	項目コード	書き込む データ
-------------------	----------------	-------	-------------

通信コントロール装置からの応答

通信コントロール 装置コード	Write 応答コード	項目コード	書き込んだ データ
-------------------	----------------	-------	--------------

(c) Execute 処理

通信コントロール装置へのアクセス

通信コントロール 装置コード	Execute 要求コード	項目コード	動作内容 補足
-------------------	------------------	-------	------------

通信コントロール装置からの応答

通信コントロール 装置コード	Execute 応答コード	項目コード	動作結果 情報
-------------------	------------------	-------	------------

管理装置から通信コントロール装置へのアクセス時のデータフォーマット

【図17】

【図17】

通信コントロール装置から複写機へのアクセス

(a)

Read 要求コード	項目コード
---------------	-------

複写機から通信コントロール装置への応答

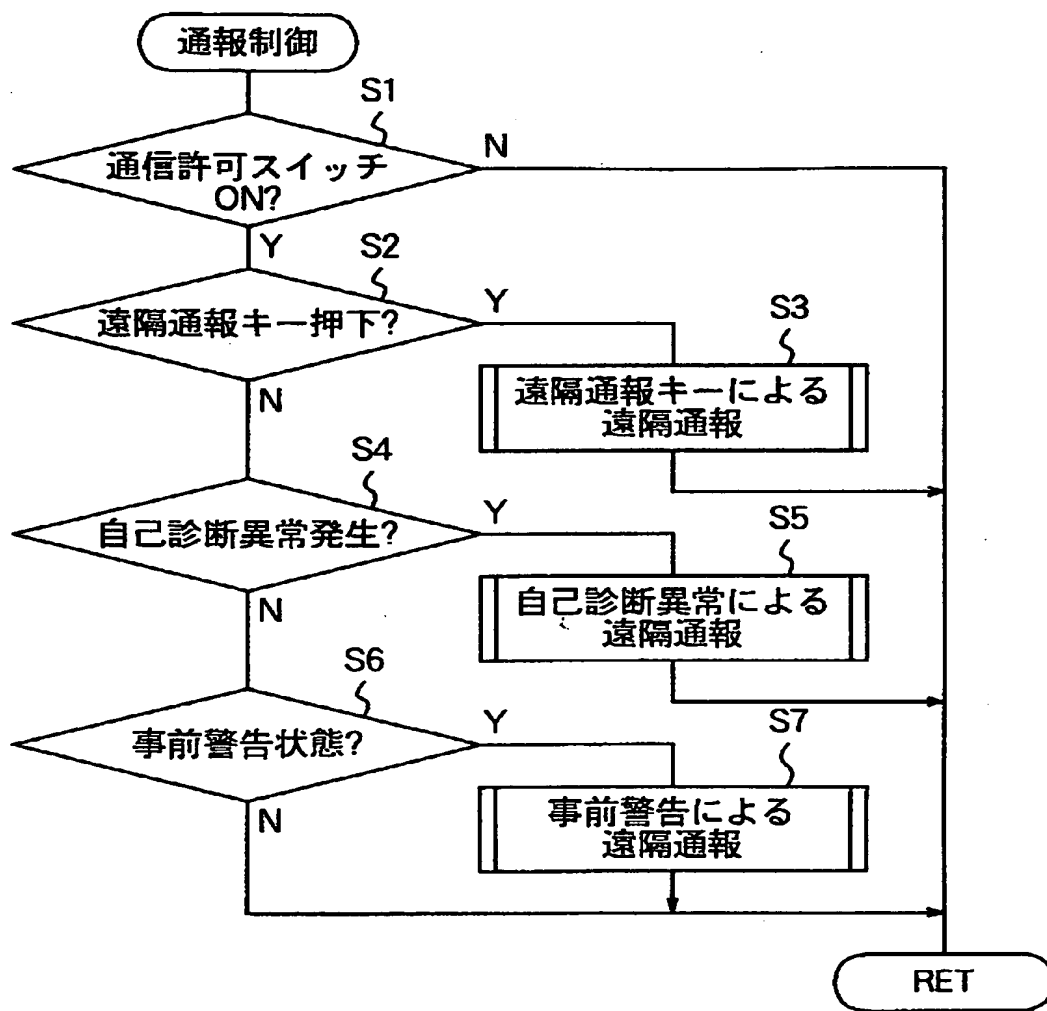
(b)

Read 応答コード	項目コード	読み出し データ
---------------	-------	-------------

通信コントロール装置から複写機へのアクセス時のデータフォーマット

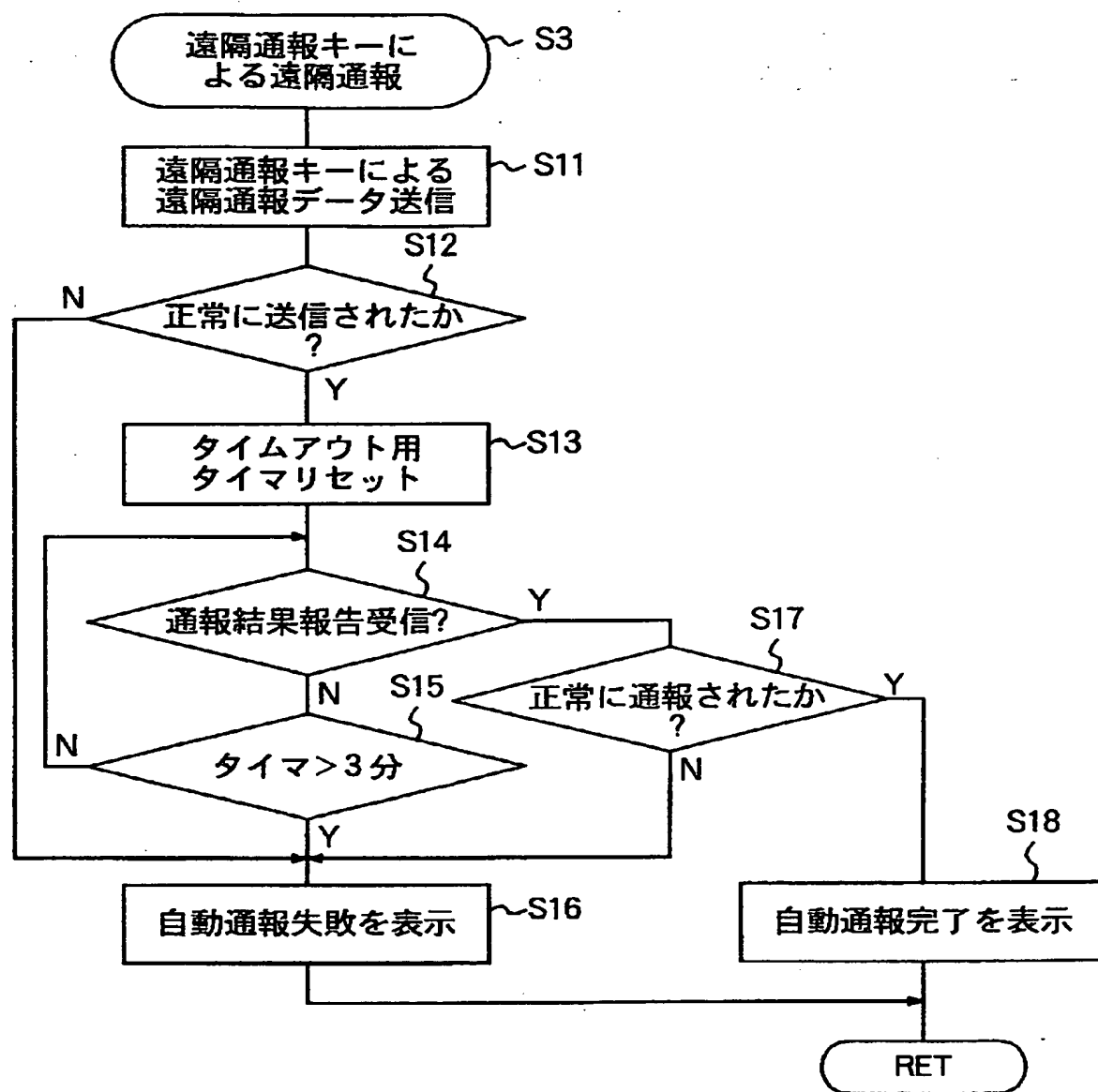
【図18】

【図18】



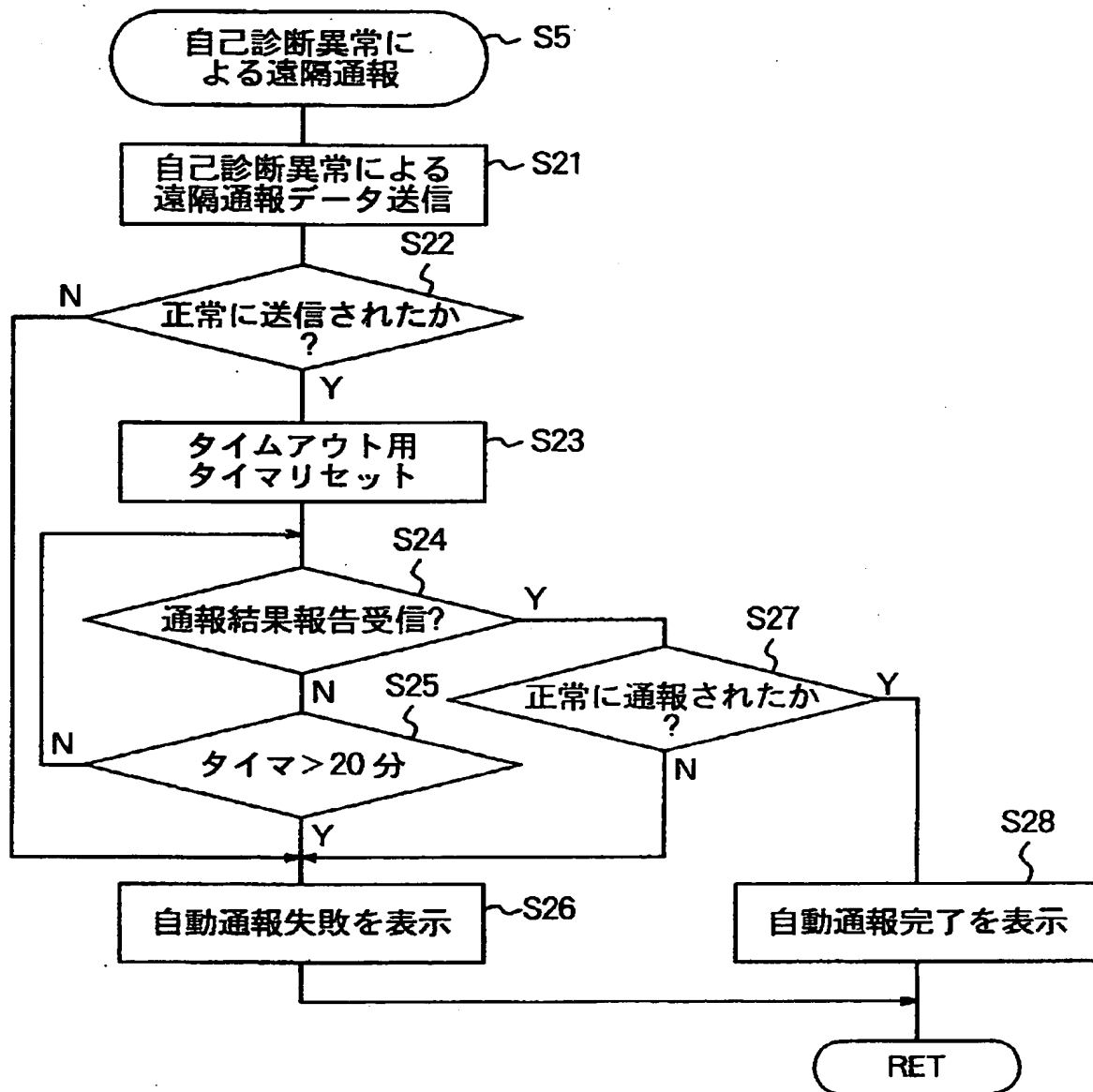
【図19】

【図19】



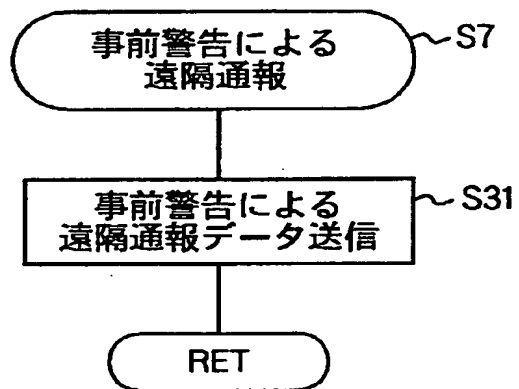
【図20】

【図20】



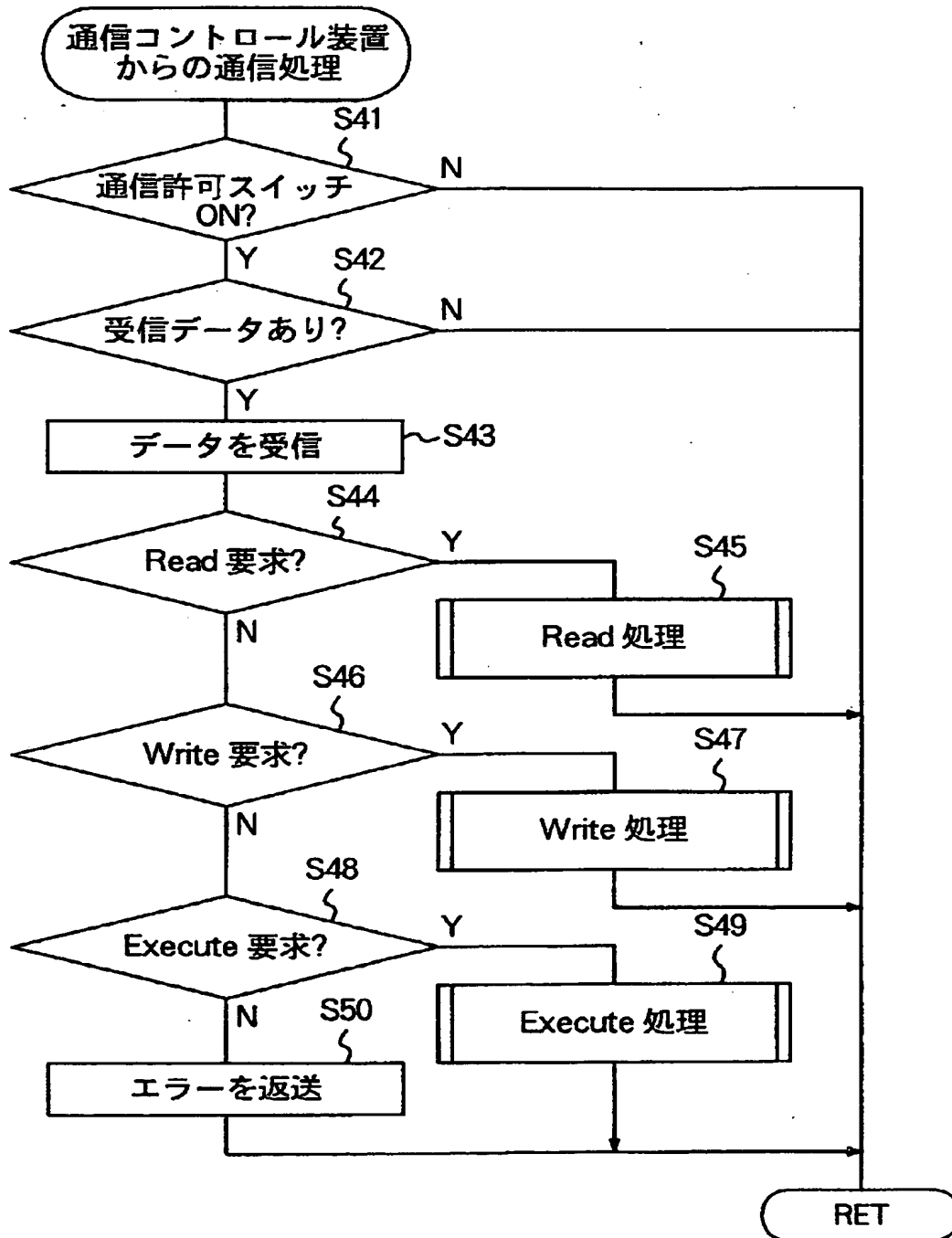
【図21】

【図21】



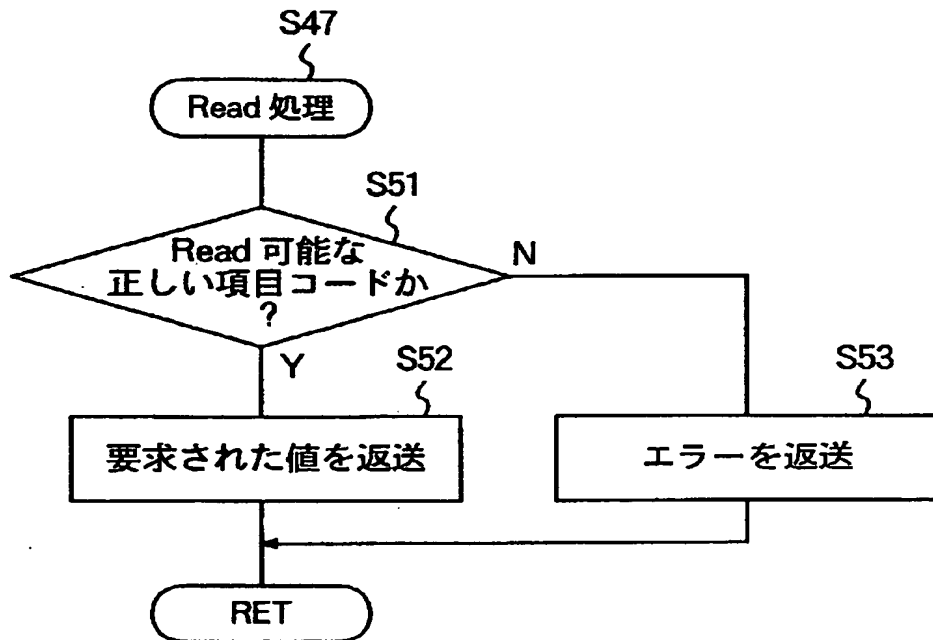
【図 2 2】

【図 2 2】



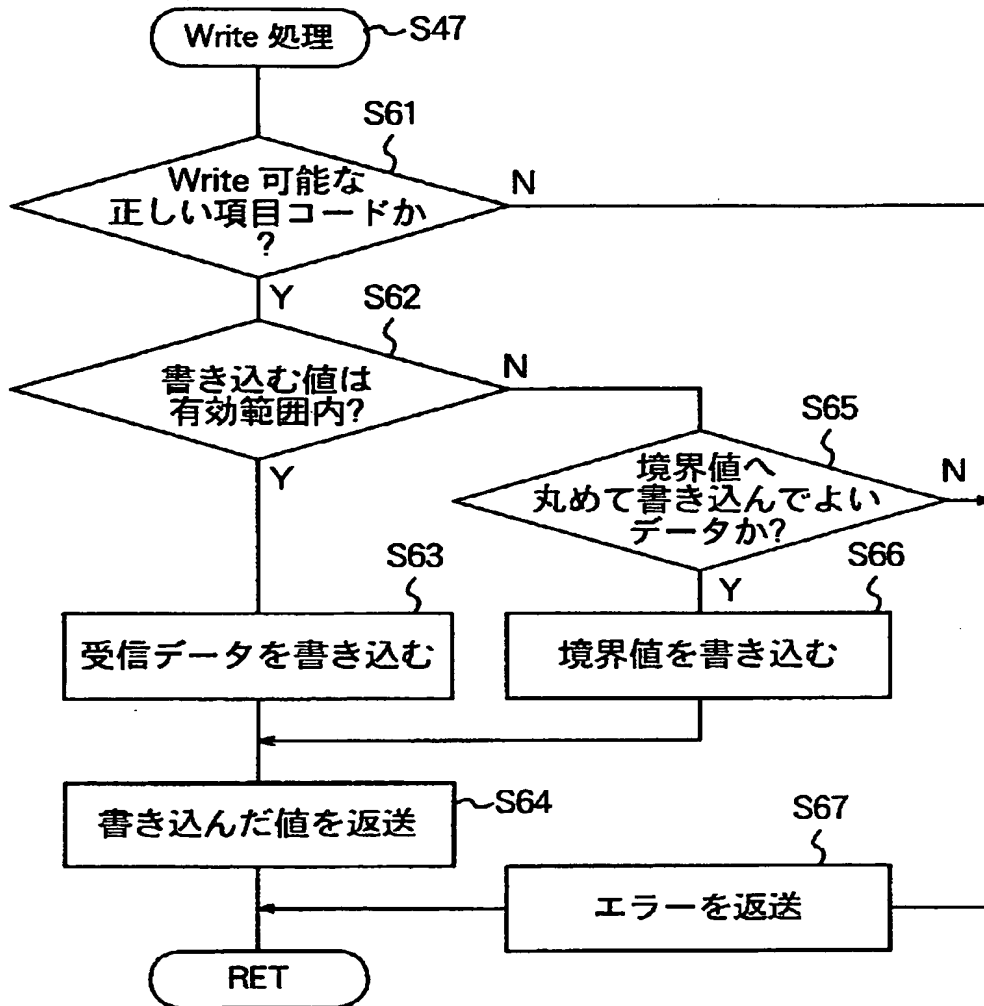
【図23】

【図23】



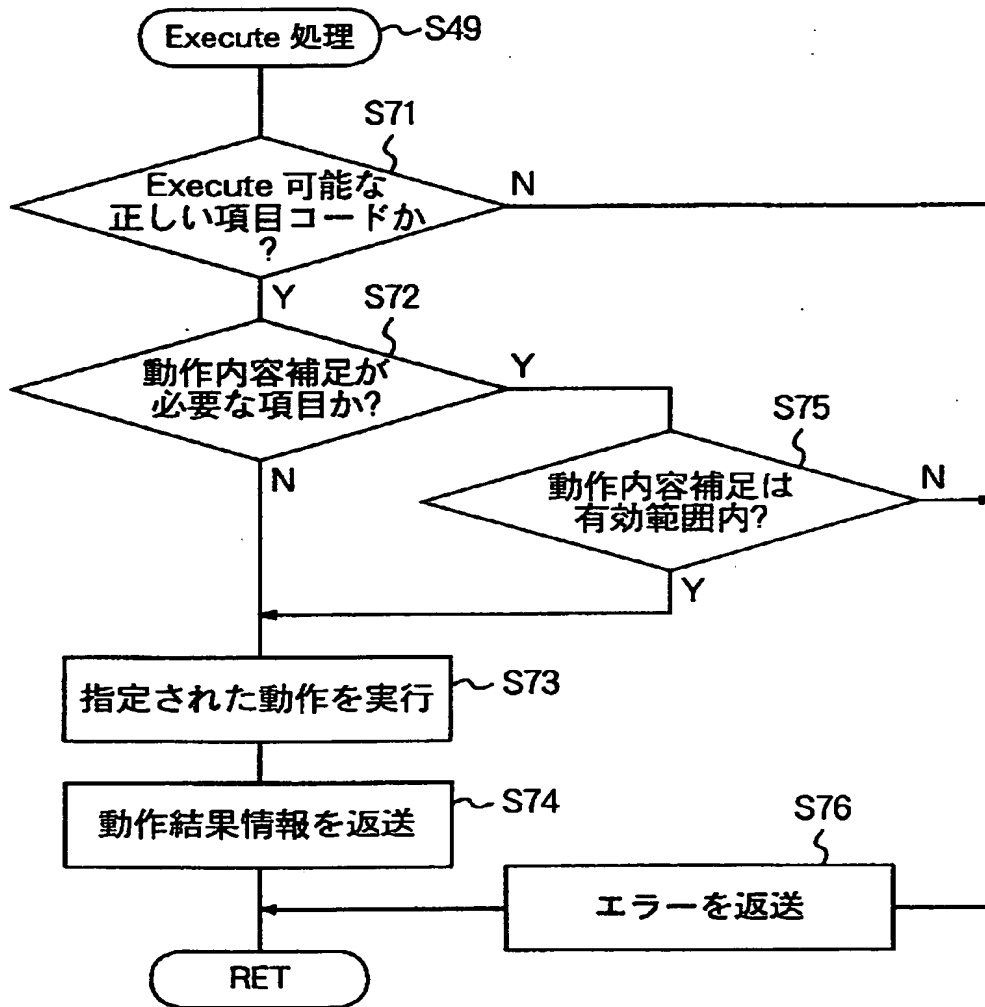
【図24】

【図24】



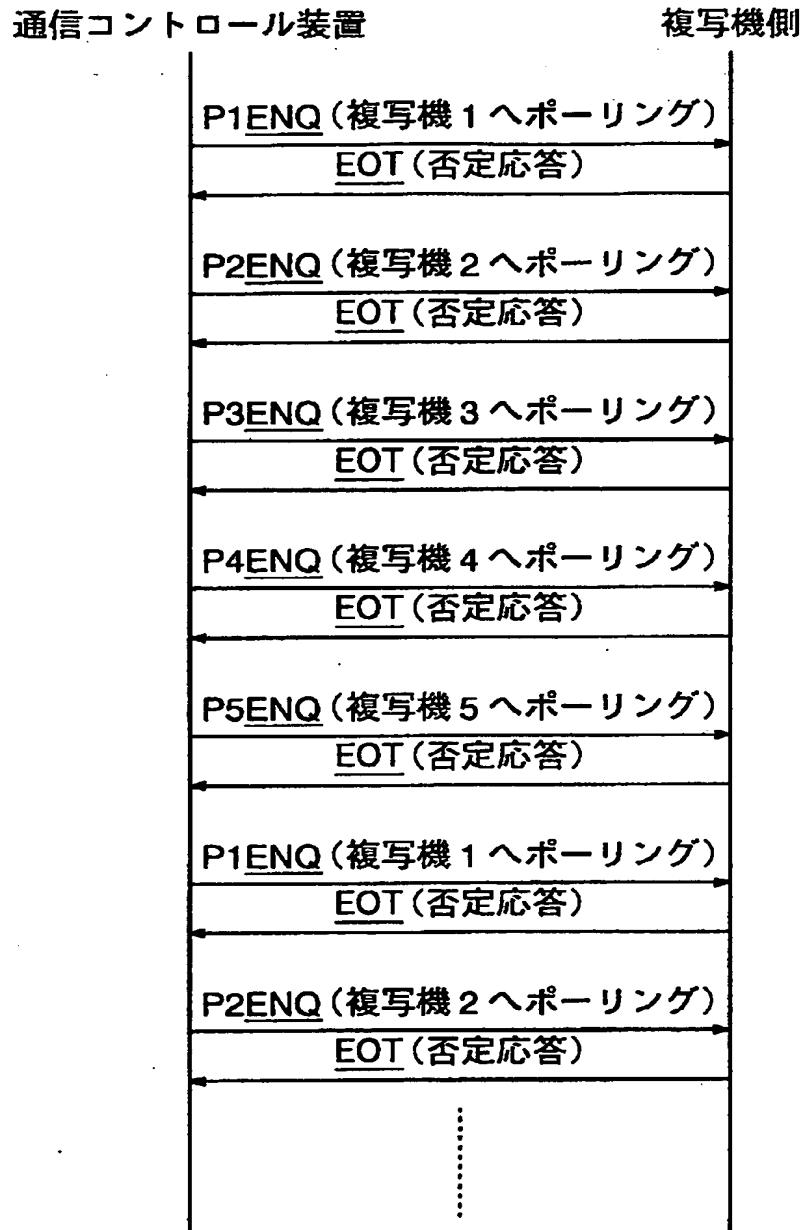
【図 25】

【図 25】



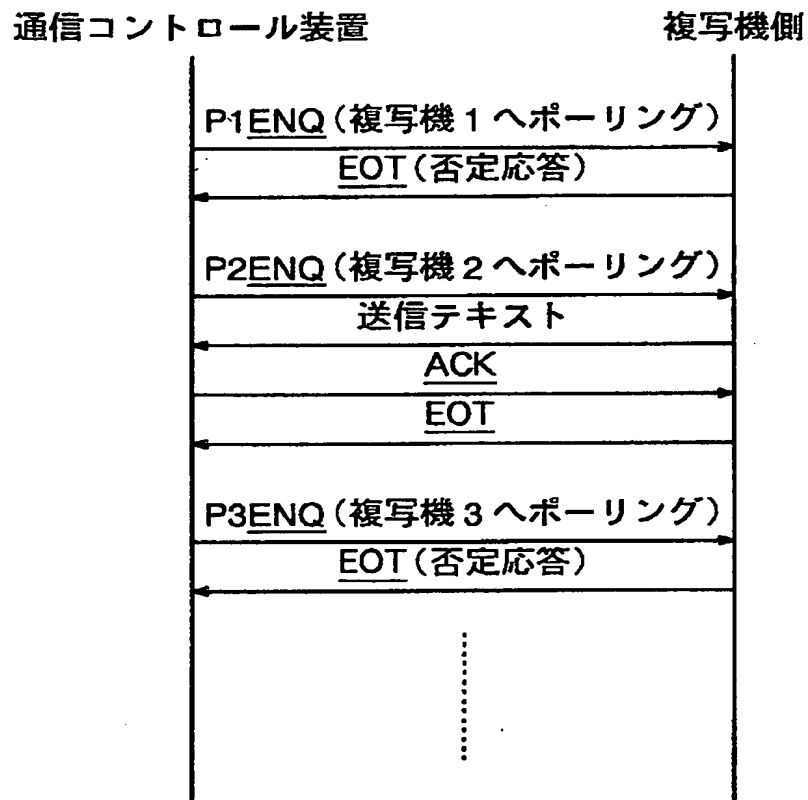
【図 2 6】

【図 2 5】



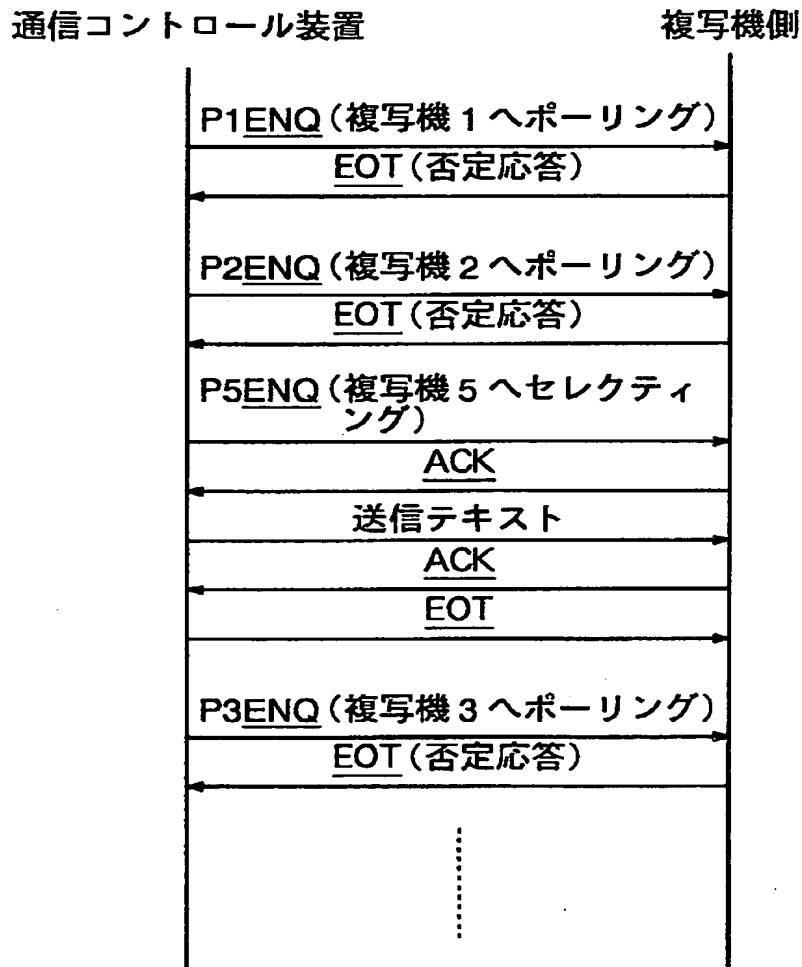
【図 2 7】

【図 2 7】



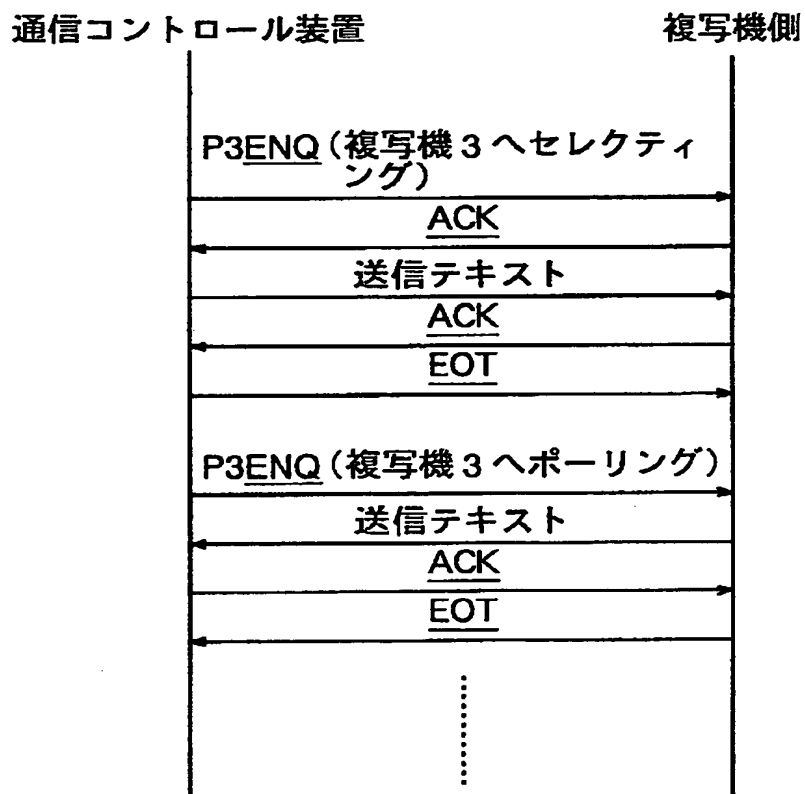
【図 2 8】

【図 2 8】



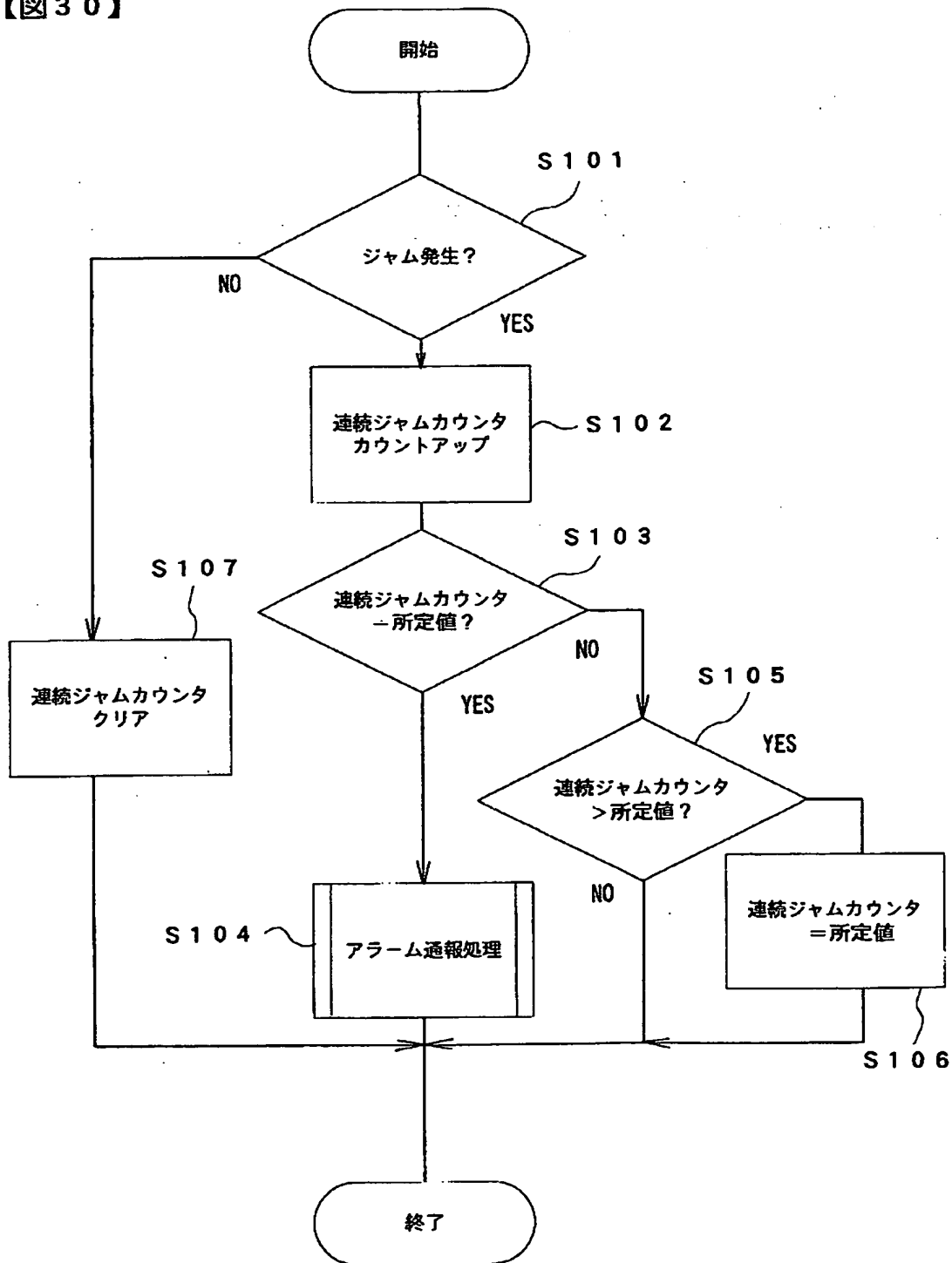
【図 2 9】

【図 2 9】

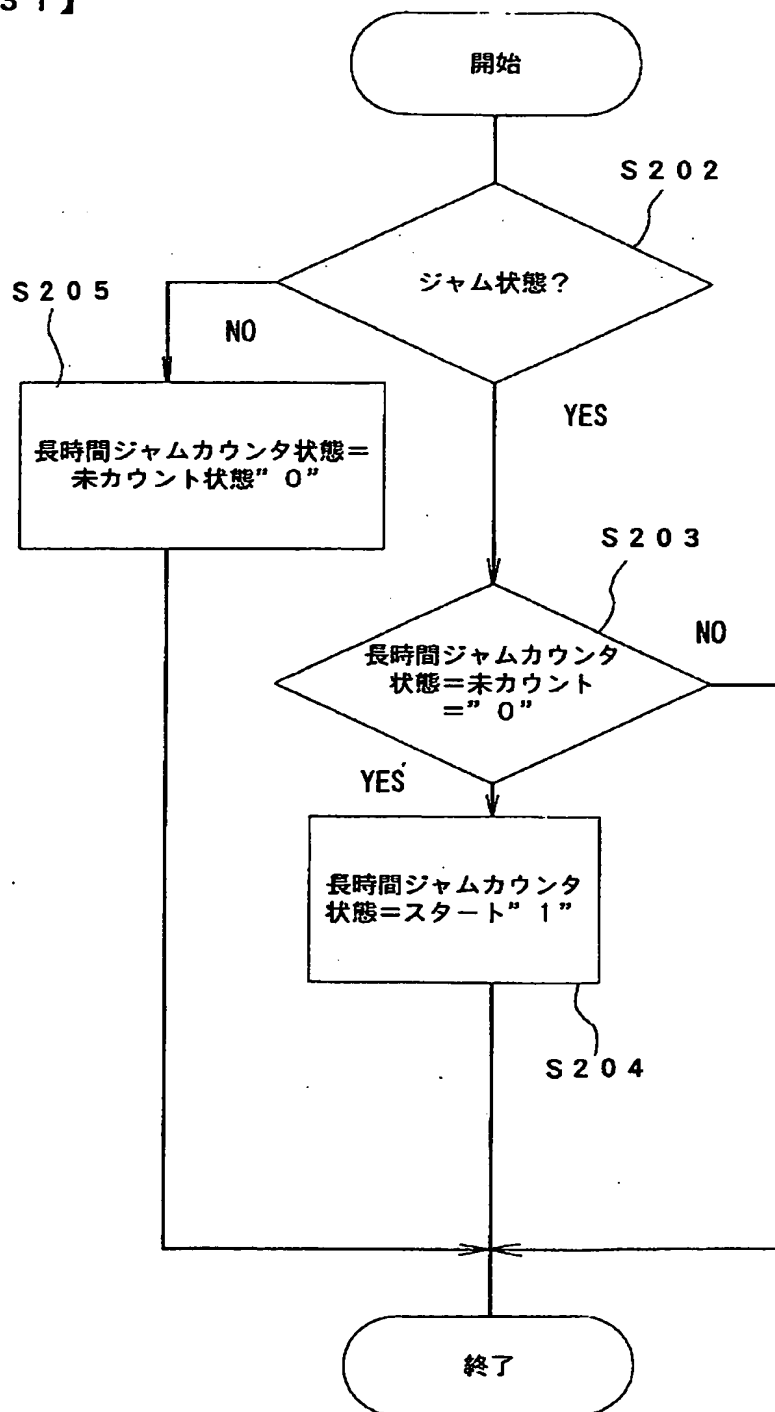


【図30】

【図30】

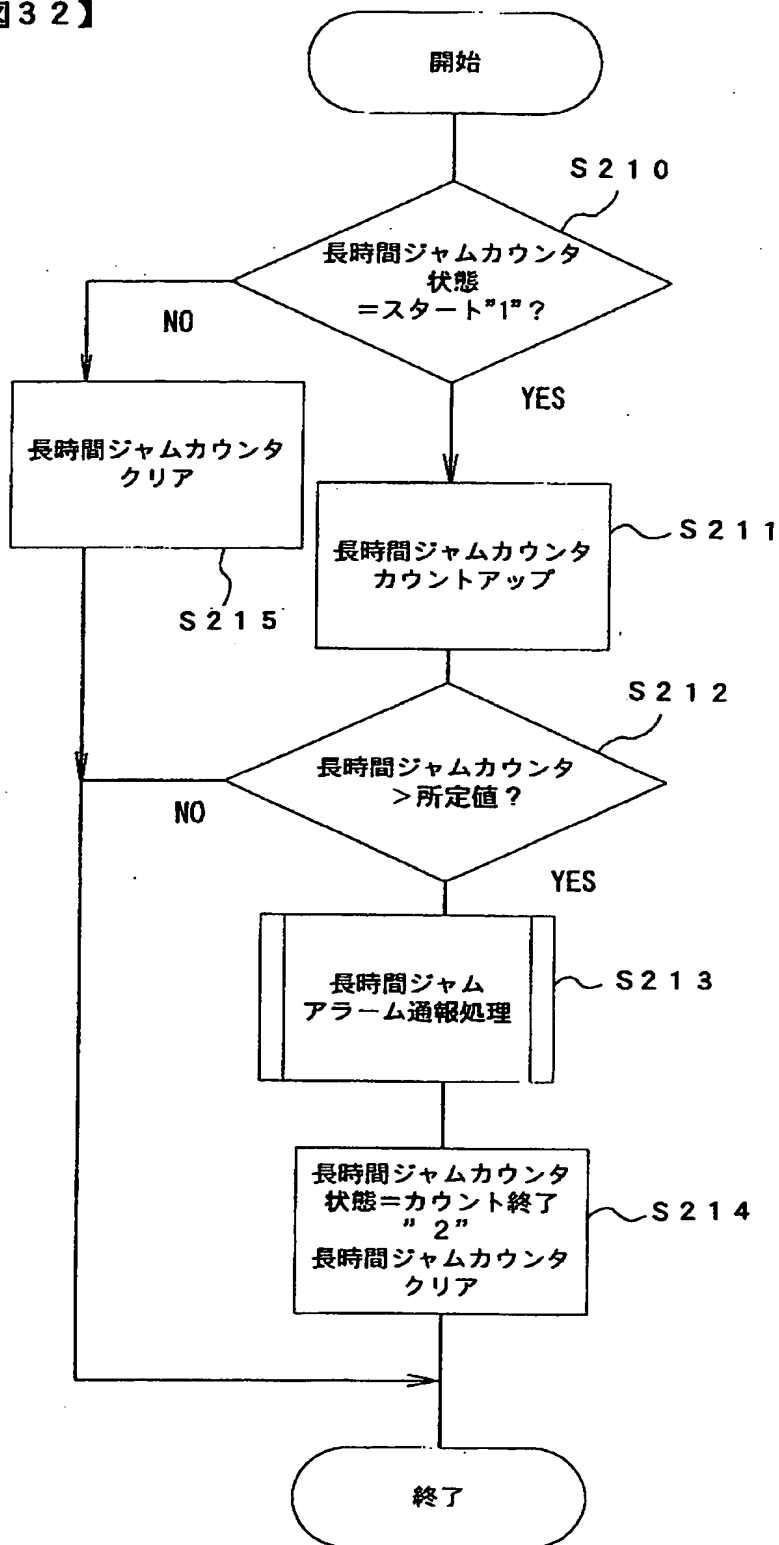


【図 31】
【図 31】



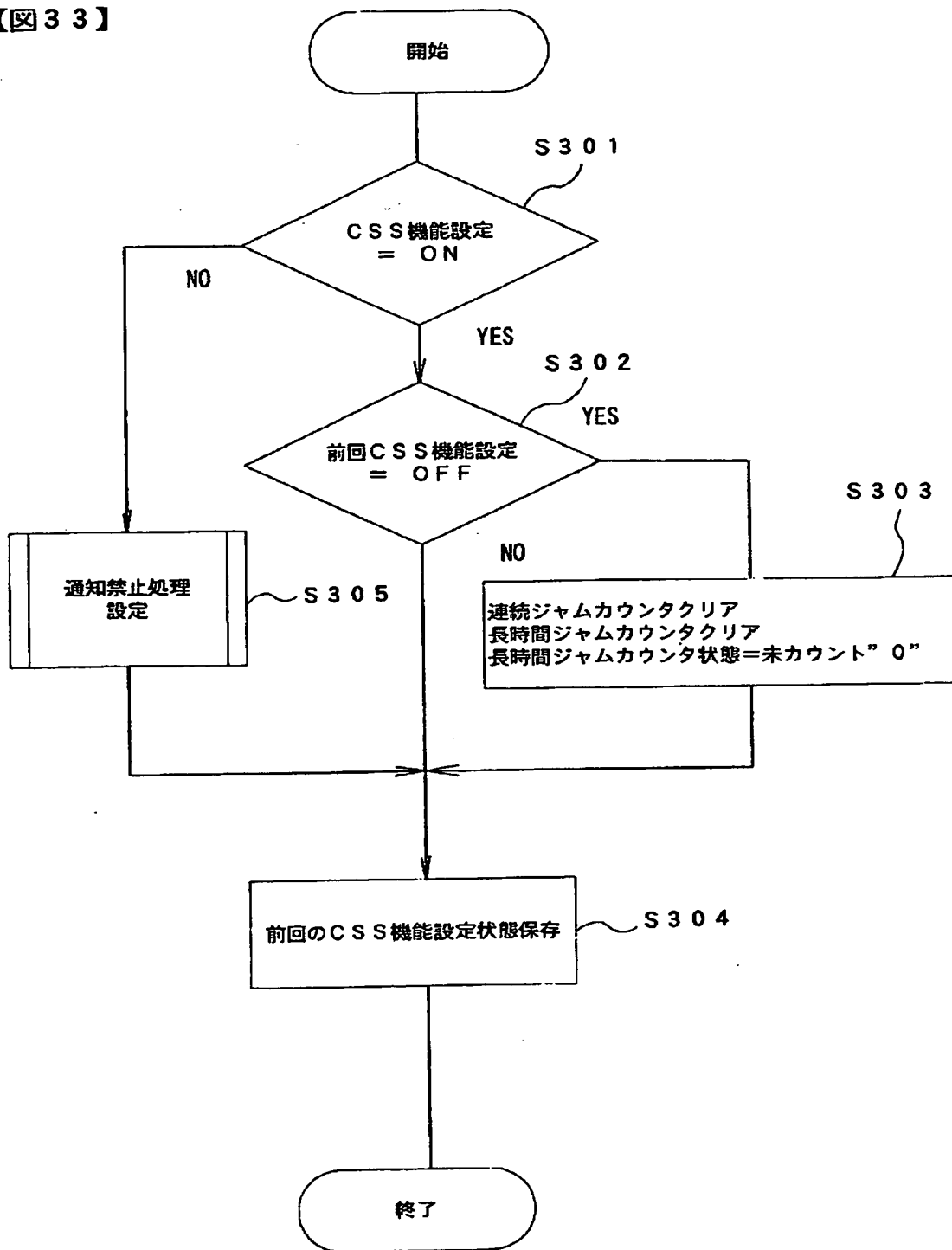
【図32】

【図32】



【図33】

【図33】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ジャムトラブル時の無駄な自動通報を防止する。

【解決手段】 ジャム発生回数をカウントする連続ジャムカウンタをジャム発生時にカウントアップし、連続ジャムカウンタのカウント値が所定値と一致する場合にはアラーム通報処理を実行し、他方、一致しない場合にはアラーム通報処理を実行しない。また、ジャム状態の時間をカウントする長時間ジャムカウンタをカウントアップし、長時間ジャムカウンタが所定値を越えていない場合には「長時間ジャムアラーム通報処理」を実行せず、越えている場合には「長時間ジャムアラーム通報処理」を実行する。

【選択図】 図30

【書類名】 職権訂正データ
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】
【識別番号】 000006747
【住所又は居所】 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
【氏名又は名称】 株式会社リコー
【代理人】 申請人
【識別番号】 100078134
【住所又は居所】 東京都港区西新橋1丁目6番13号 柏屋ビル 武
特許事務所
【氏名又は名称】 武 顕次郎
【選任した代理人】
【識別番号】 100097951
【住所又は居所】 東京都港区西新橋1-6-13 柏屋ビル内 武特
許事務所
【氏名又は名称】 山田 英穂
【選任した代理人】
【識別番号】 100099520
【住所又は居所】 東京都港区西新橋1丁目6番13号 柏屋ビル武特
許事務所
【氏名又は名称】 小林 一夫

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000006747]

1. 変更年月日 1990年 8月24日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都大田区中馬込1丁目3番6号

氏 名 株式会社リコー